司法省藏版
大審院民事判決錄
明治十二年十月印行

C2/204/01
C2 2811 10

大審院民事判決錄 自明治十一年十一月 至明治十一年十三月

目錄

第百八十二號　約定金請求一件　一[illegible]丁
第百八十三號　地所幷地券證取戻一件　七七丁
第百八十四號　渡金取戻一件　九七丁
第百八十五號　訴訟入費償却一件　一二三丁
第百八十六號　分界地爭論一件　一二四丁
第百八十七號　村有地爭論一件　一五七丁
第百八十八號　掛水差縺爭一件　二二九丁
第百八十九號　貸金催促一件　二九二丁
第百九十號　質品受戻一件　三二五丁
第百九十一號　水汲道境界差定ノ故障一件　三五四丁

第百九十三號　買附質手形米受渡違約一件　四〇三丁
第百九十三號　下掃除代取戻一件　四二三丁
第百九十四號　貸金催促一件　四三三丁
第百九十五號　送籍催促一件　四六一丁
第百九十六號　貸金催促一件　四七三丁
第百九十七號　耕地馬入道論所一件　五〇三丁
第百九十八號　水路並砂揚場境界爭論一件　五三五丁
第百九十九號　宅地取戻一件　五三七丁
第二百號　元金取戻一件　五八七丁
第二百一號　貸金催促一件　六〇八丁
第二百二號　貸金催促一件　六三一丁
第二百三號　山林持主爭論一件　六四三丁

第二百四號　貸地請狀請求一件　六七四丁
第二百五號　官民爭地譯定一件　七一八丁
第二百六號　損害償求一件　七八七丁
第二百七號　買得山林地劵不引渡一件　八〇四丁
第二百八號　買得山林引渡請求一件　八二九丁
第二百九號　渡船業取戻一件　八七四丁
第二百十號　慈光寺舊境內處分違一件　九一七丁
第二百十一號　小作米催促一件　九八〇丁
第二百十二號　質地證書改正一件　一〇二三丁
第二百十三號　預ヶ金淹滯一件　一〇二七丁
第二百十四號　田地取戻一件　一〇五〇丁
第二百十五號　兵營建築用材相當代價請求一件　一〇七一丁

第二百十六號　賣掛代金催促一件　一一二〇丁
第二百十七號　輸出品差拒要償一件　一一七九丁
第二百十八號　銅鑛賣買違約一件　一一九八丁
第二百十九號　抵當地所引渡違約一件　一二四八丁
第二百二十號　舊藩貸附金取立處分不服一件　一三〇二丁
第二百二十一號　山地境界論一件　一三五六丁
第二百二十二號　黑姫山入會爭論一件　一三八八丁
第二百二十三號　山林賣買契約履行一件　一四二三丁

大審院民事判決錄　自明治十一年十一月　至明治十一年十二月

第百八拾壹號

約定金請求一件上告ノ判文　明治十年一月二十九日上告　明治十一年十一月四日申渡

原告　横濱在留英國人エーミルソム代言人英國人　モンテギウ、キルクート

被告　日本政府大藏省代人　大藏省少書記官北村泰一　ロヘルト、ビートン

東京上等裁判所ノ審判

原告ヨリミルソム代言人ヒーチツス詞訟ノ要領

明治八年八月十七日　西暦千八百七十五年八月十七日

第一條

原告ハ横濱百七十七番在留ノ商人ニシテ「ナルメール、シヨユー、ミル」社中ノ一名ナリ

第二條

舊津輕藩ノ名代トシテ被告ノ代理ナル箱館舊運上所ニ於テ千八百六十八年十月二十七日我明治元年九月十二日墨銀七千枚ノ金額幷ニ右ノ金額七千枚或ハ其幾部分拂濟ニ成ラサル間ハ利金一箇月ニ附一分五厘ノ割合ニテ「エー、ピー、ポルトル」ニ拂フヘキヲ約シポルトルニ於テ左ノ證文ヲ請取置キタリ

ミストルアエヘエホルトルヘ

一金 七千 兩也

箱館府

運上所

書面之金子ハ津輕家小銃約定之金子ニ付望之通可相拂若渡方差支候節ハ一箇月壹歩五厘之利足ヲ加ヘ可相渡事ヲ證ス

慶應四辰年九月十三日

裏書

横文

日本字

ヒー、ヒー、アレックス、ボルテル箱館府

ロイス、プロモッシル　運上所役人

庭井美之助花押

拂ニ付送レリ

横濱日本十一月五日

第三條

千八百六十八年十二月十二日我明治元年十月廿九日或ハ其頃「エー、ピー、ポルト

ル」ハ利益ヲ思慮シ前條ノ證文ヲ原告社中ヘ讓リ渡セリ

第四條

右金額拂方ハ原告或ハ其社中ヨリ屢箱館舊運上所ヘ催促ヲナシタリシカ同運上所ニ於テハ横濱運上所ヨリ可請取トノ談シニ因リ尚横濱運上所ヘモ催促ナシタレモ遂ニ今日ニ至リ箱館或ハ横濱運上所ニ於テ該證ニ對シ拂方ヲナサヽリシ依テ原告請求スルノ趣旨左條ノ如シ

第五條

該證ニ記載スル金額墨銀七千枚並ニ利金一箇月ニ附壹分五厘ノ割合ニテ千八百六十八年十月廿七日我明治元年ヨリ本日西暦千八百九月十七日我明治元年ヨリ本日西暦千八百十五年五月十七日マテ墨銀八千五百五拾九枚ニシテ合計墨銀一萬五千五百五拾九枚ナリ然シテ其金額ヘ本日同上ヨリ拂濟迄ノ利子ヲ

添ヘ日本政府ヨリ原告ヘ償還アルヘキ樣裁判アランコトヲ乞フ

被告　日本政府大藏省代理北村泰一答辨ノ要領

明治元戊辰年九月十二日千八百六十八年十月廿七日津輕藩ノ爲メ函館舊運上所ヨリ金額七千兩ヲ英人エ、ピ、ポルトル氏エ拂渡サンコトヲ約定セシ證書ヲ以テ原告ミルソン氏ヨリ右金額及ヒ利息トモ請求サル、ト雖モ被告ニ於テハ此請求ハ決テ承諾サヽサルナリ

右七千兩ノ證書ハ原告ニ關係スルモノニ無之ポルトル氏ニ關係スル事件ニテ其拂方ハ則ポルトル氏ニ限リ拂フ可キ事ヲ約セルモノナリ故ニ其他ノ人ニ於テハ如何ナル事由アリテ此約定書ヲ所持スルトモ固ヨリポルトル氏ト其利害得失ヲ異ニスル能ハス

若シ七千兩ノ金額ヲポルトル氏ニ於テ請求ヲ爲ストモ許容セサルモノナリ如何トナレハ此證書ハ同氏ト津輕藩トノ間ニ於テ拂渡ス

ニ及ハサル事由アリテ既ニ廢物トナリタルモノナレハナリ故ニ其他ノ人ニ於テモ更ニ請求スヘキ理ナシ

今茲ニ七千兩ノ證書ノ廢物ニ成リシ所以ヲ聊辨明セントス抑此七千兩ノ金額ヲポルトル氏ニ對シ拂渡サンコトヲ約定セシハ明治元戊辰年三月千八百六十八年四月頃於函館津輕藩トポルトル氏ト小銃二千挺賣買ノコトヲ約シ手附金トシテ金一萬五千兩津輕藩ヨリポルトル氏ニ可拂渡ノ約ヲナシ其內金八千兩ヲ同氏エ渡シ殘金七千兩ハ則此證書ヲ以テ拂ハンコトヲ約定セシモノナリ

然ルニ小銃買入ノ約定ハポルトル氏ニ於テ期限ヲ誤リ約定ニ背キタレハ破談トナリタリ然レトモ手附金八千兩ハ右證書ノ七千兩ノ正金ヲ渡サヽルニ因リ上海ニ在ル英國裁判所ノ裁決ニテ取戻スコトヲ得サリシナリ故ニ此證書ハ原約ノ破談ト倶ニ廢物トナリシコトハ

實ニ確實明瞭ナリ

右七千兩ノ證書ノ事件ニ付テハ佛國商會ワルマル氏ション氏「ミルソン」氏ヨリ佛國公使ノ手ヲ經テ明治五年正月九日千八百七十二年二月十七日我千八百七十三年四月十日附外務省ヘ請求相成再應照會ノ末明治六年四月十日書翰ヲ以テ右請求ハ承諾サレサル旨外務省ヨリ詳細辨駁相成タリ然ルニ猶今般ミルソン氏ヨリ訴訟サルヽハ了解シ難キコトナリ

判文

原告「ミルソン」社ハ舊箱館運上所ヨリ「ポルトル」氏ヘ宛タル銃砲代金ノ證書ヲ「ワルメールシユーン、ミルソン」社中ヲ經テ讓受ケタル趣ヲ以テ日本政府ニ對シ要求スル金額左ノ如シ

證書面ノ金額七千枚及ヒ利足一箇月一分五厘ノ割合ニテ一千八百六十八年十月二十七日我明治元年ヨリ一千八百七十五年八月九月十二日

十七日我明治八年八月十七日迄墨銀八千五百五十九枚元利合計一萬五千五百五十九枚ヘ一千八百七十五年八月十七日我明治八年八月十七日ヨリ金額拂方迄ノ利足ヲ拂方有之度シト[illegible]被告ニ於テハ此要求一切承諾サレサル旨ヲ答辨ス

右ノ訴訟ヲ判決セシニハ證書及ヒ振リ手形等ノ所有權讓リ渡シノ習慣ヲ説示スルヲ要用トス

凡甲ニ乙ニ對シ金圓拂渡スヘキ約定證書又ハ振リ手形ヲ乙ニ丙ニ讓與セント欲スル時ハ其證書又ハ振リ手形ニ讓與セシ旨ヲ記入スルカ或ハ添證書ナカルヘカラス丙ヨリ丁以下ヘ幾轉傳スルモ又斯ノ如シ[illegible]其轉傳シテ所持スル者甲ニ向ヒ證書又ハ振リ手形ノ金額拂方ヲ請求スルニ中リ甲者若シ此證書又ハ振リ手形ニ付己レト乙トノ間ニ

於テ故障アル旨ヲ述ヘ金額ノ拂方ヲ拒ムトキハ丙以下ノ所有者甲ヲシテ强テ金額ヲ拂ハシムルヿヲ得ス

此場合ニ於テハ假令所有者幾轉傳シタルモ順次ニ繰リ戻シナシ甲ト乙トノ間ニ於テ之ヲ論決ス

然リト雖モ甲ナル者丙以下ノ所有者ニ對シ一旦己レカ義務アルヿヲ許諾セシ確證アルトキハ甲ト乙トノ關係ヲハナレ所有者ニ對シ必ス其義務ヲ盡サヽルヘカラス

證書又ハ振リ手形讓リ渡シノ習慣斯ノ如シ

然リ而シテ本訴原告被告ノ論辨及ヒ各證據人カ陳述スル次第ヲ區分シテ左ノ三項トナス

第一項

原告ミルソム氏ハ何等ノ手續キヲ以テ該證書ヲ所持スルヤ

第二項

日本政府ハ「ワルメール、シユーン、ミルソム」社中又ハ原告「ミルソム」氏ニ對シ該證書ノ金額拂方ヲ許諾セシ證アリヤ

第三項

舊津輕藩或ハ箱館運上所ト「ポルトル」氏トノ間ニ於ケル約定ハ消散セシヲナキヤ

第一項原告代言人申立ル旨趣ハ

「ワルメール、シユーン、ミルソム」社中ハ一千八百六十八年十二月十二日我明治元年十月廿九日「ポルトル」氏ヨリ左ノ證書ヲ讓リ受ケタリト貴店ト津輕トニテ取結ヒタル約定ニ付金七千兩ノ金額ハ貴店ヨリ催促ノ節ニ拙者共ヨリ拂方致スヘク若シ催促ヲ受クル節右ノ金額拂方出來サル時ハ右ノ金額ヘ利金トシテ一箇月ニ附壹分五厘ノ

增掛定ヲ致スヘキ候事

金額七千兩也

日本暦九月十二日

西暦千八百六十八年十月廿七日箱館印遞上所

箱館ニテ

ユー、ピー、ポルトルヘ

日本國横濱於テ辰年十一月五日ニ催促ヲナシタリ　手記

千八百六十八年十二月十二日箱館ニテ貌列頭國領事館於テ書面ヲ書キ留メ置キタリ

貌列頭國領事

アイ、エス、アル、エースデン

其後右ノ證書ハ現今此訴訟ヲナス「ミルソム」氏一己ノ所有ニ歸セリト

被告答辨ノ旨趣ハ
一千八百七十三年第二月二十日我明治六年二月二十日附ケヲ以テ在箱館英國代辨領事「トルーブ」氏ヨリ英國人「ポルトル」氏破産ノ義ニ付「ワルメール」「シユーン」「ミルソム」ノ三氏ヘ送リタル返翰ノ正寫ハ即チ我明治六年三月四日西暦千八百七十三年三月四日佛國代理公使「チユレンス」氏ヨリ我外務卿ヘ送附セラレシ書翰ニ添ヒタルモノニシテ既ニ訟庭ニ於テ原告證人「シユーン」氏モ確實ノモノト見認メ而テ其返翰ノ文中ニ「去年六月十七日諸債主初會ノ砌諸君ヨリ「ポルトル」氏ノ家産ニ附御申立有之候節云々、御貸附金額ハ元來一萬二千七百十九弗五先多ニハ候得共右引當證券七千兩丈ケヲ差引尚殘リ五千七百拾九弗五先多ニ相成申候云々偖又右ニ附諸君御申立ノ義ハ千八百六十九年設定ノ瓦解律四十章ニ基キ御預リ相成候引當證券

ヲ先方ヘ返却シテ總貸金ノ債主ニナルヒ或ハ右引當ヲ其儘御留置ニテ殘金ノ債主トナルヒ右同樣孰レカ御採用次第ニ候ヒシ處諸君ノ名代人「カントルリール」氏ノ發言ニテ則諸君ハ其引當品ヲ其儘受納シテ殘金五千七百拾九弗五先多ノ債主タル御申立通リ相運ヒ申候云々」ノ文意ヲ以テ觀レバ實ニ西暦一千八百七十二年六月十七日我明治五壬申年五月十二日マテハ該證書全ク原告社中ヘ轉讓セシモノニ非スシテ假ニ抵當トナリ居タルヿ明瞭ナリト

右約定書讓リ渡シノ手續キ原被申立一定セス被告證據トスル「トルーブ」氏ノ書翰ハ「ワルメール、シユーン、ミルソム」社中ヨリ金額拂方請求ノ節佛國公使「チユレンス」氏ヨリ我外務省ヘ差出セシモノニシテ確實ノ書翰ト見認ムヘシ而シテ原告所持スル證書ハ「ポルトル」氏ヨリ「ワルメール、シユーン、ミルソム」社中ヘ讓渡ノ記入モナク又添ヘ證

書モ之レナキニ付證書讓リ渡シノ習慣ニ違ヘルモノトス

第三項原告證據人「シユーン」氏申立ル旨趣ハ

一千八百六十八年十二月十二日我明治元年十月廿九日「ポルトル」氏ヨリ「ワルメルル、シユーン、ミルソム」社中ヘ荷物ノ勘定ノ爲メ右證文ヲ讓リ請ケントセシ節箱館運上所ヘ罷越シ證文ノ眞僞ヲ尋ヲ金額ヲ請求セシニ運上所ニ於テハ眞正ノ證文ニ付横濱ニテ金額拂フヘキ旨ヲ返答シ毫モ證文ノ予カ手ニアルヲ拒マス其節運上所ヨリ證文ノ寫一通ヲ貰ヒ受ケ其寫ハ現今函館ニ在ル英國領事館ニ存在セリ

一千八百六十八年十二月十八日我明治元年十一月五日予ハ箱館ヨリ横濱ニ歸リ同所ノ裁判所ヘ金額拂方ヲ催促セシ處此證文ハ正シキモノナレ共金額拂方ヘ少シク手間取ルトテ箱館運上所ノ官員該證文

ニ手記シタリ爾後「ブアーブル、ブランド」氏ヲ召連レ横濱ニ在ル官廳ヘ催促セシニ最後ノ返答ハ金額拂フヘキニ附證文ヲ箱館ヘ送致スヘシトナリ因テ一千八百六十九年九月廿二日我明治二年八月十七日箱館表ニアル「コードレリー」氏ヘ送達シ金額請取方ヲ托セシニ運上所ハ承諾シタレ共金額無之ニ付再ヒ横濱ヘ送ルヘシト返答セシ旨「コードレリー」氏ヨリ申來レリ横濱運上所ニ於テハ尚此拂方ヲ延引シタリ

其後一千八百七十五年一月我明治八年一月現今訴訟ヲナス「ミルソム」氏ヘ讓與セシ旨申立タリ

原告證據人「ブアーブル、ブランド」氏申立ル旨趣ハ

一千八百六十九年我明治二年ニ「シユーン」氏ノ親友トナリ横濱裁判所ヘ行クヲヲ右「シユーン」氏ニ頼マレシヲ覺エ居レリ而テ「シユーン」

氏ハ「ワルメール、シユーン、ミルソム」社中ノ爲メニ該證文ヲ示シ金額催促ヲ爲セシ處其回答ニ日本語ニテ心配スルニ及ハス金額拂方ニ成ルヘシトノ返答有之自分手扣覺書ニ前文ノ通リ催促セシコトヲ記載シアル旨申立タリ

原告　證據人「コードレリー」氏申立ル旨趣ハ

一千八百六十八年我明治元年ニ「ワルメール、シユーン、ミルソム」社中ノ爲メ箱館表ニ於テ代人トナリシニ付箱館運上所ヨリ金子受ケ取リノ爲メ「ワルメール、シユーン、ミルソム」ヨリ一千八百六十九年我明治二年該證書ヲ送リ來レリ

自分ニ於テハ此證文ヲ以テ箱館運上所ヘ催促セシニ其回答ハ江戸ヨリ長谷部氏ノ歸ルヲ待ツヘシトノ「故右同人ノ歸ルヲ待チ面會セシニ箱館運上所ニ金額ハ無之然レトモ此證文ヲ横濱ヘ送ラ

ハ「ワルメール、シユーン、ミルソム」社中ヘ拂方ナルヘシトテ横濱ヘ官員二名ヲ差出スヘシト申聞ケラレタリ右ハ一千八百六十九年九月我明治二年七月二十五日ヨリ八月二十五日マテノウナリシ旨申立タリ

原告　證據人「ユースデン」氏申立ル旨趣ハ

一千八百六十八年我明治元年ノ末ニ「シユーン」氏自分方ヘ來リ箱館運上所ヨリ「ポルトル」氏ヘ與ヘシ處ノ七千兩ノ證文ヲ「ポルトル」氏ヨリ商業取引ノ爲メ請取リ度旨ニテ此證文ハ正シキモノナリヤノ問合セヲナセシト雖モ自分ニ於テハ其正否ヲ知ラス因テ箱館運上所ヘ問合セシ處正シキモノナリトノ返答アリ其節予ハ此問合セヲ爲ス所以ヲ陳述シタリ其後尚又「シユーン」氏ノ依頼ニ依リ箱館運上所ヘ行キシニハ六箇月程過キテノ「故叛黨ヨリ箱館ヲ取リ戻シタル後ナリ此時外務掛リ二等官吏長谷部氏ニ面會シ口上

ヲ以テ該證書ノ金額ヲ拂フコトヲ催促シタル處拂フヘキノ金ナシ
ト云ヘリ尤自分ハ「ワルメール」シユーン」社中ノ爲メニ催促セシト
陳述セリ然ル處長谷部氏ハ拂フヘキ金額ナシト雖モ「ワルメール
シユーン」氏ハ壹箇月ニ付壹分五厘ノ利足ヲ得ルカ故ニ損毛ナシ
ト云ヘリ且又長谷部氏ハ證文ノ金額横濱ニテ拂方ニナルヘシト
ノ告知アリシ[illegible]
「シユーン」氏ハ該證書ノ寫ヲ英國領事館ニ留置キ度旨申立ルニ依
リ其趣運上所ヘ申立シ處運上所ニ於テハ該證書ノ寫ヘ調印シ而
シテ自分ヘ直チニ與ヘラレタリ因テ右寫ハ現ニ英國領事館ニア
リ此寫ハ該事件ニ付初テ箱館運上所ノ官吏ニ面晤ノ節得タリト
思フナリ其後佛人ニテ「コリトレリー」氏ナルモノ自分方ヘ來リ申
聞ケシニハ横濱ニテ該證文ノ爲メ催促ヲ爲シタレトモ拂方ニ相成

ラサル趣ニテ尚又箱館運上所ヘ行クヿヲ自分ヘ依頼セシニ付コ
リトレリー」氏ヲ運上所ヘ同道シ杉浦氏ニ面會セシ處同人ハ横濱
ニ於テ是非トモ金額拂方ニ相成ルヘシト又横濱ニテ長谷部氏ヨ
リ辨解ヲ爲スヘシト又該證文ニハ政府ノ印アル故ニ是非トモ拂
方ニ成ルヘシトノ返答アリシ旨申立タリ
被告證據人庭井保濟申立ル旨趣ハ
該證書ヲ「ポルトル」氏ヨリ「シユーン」氏ヘ讓リ受ケシヿヲ明治元年
辰十月二十九日西暦千八百六十八年十二月十二日頃箱館運上所ヘ屆出シ趣ナレ
ト右日限ニハ總督始メ其他ノ官員箱館ヲ引キ上ケ青森ヘ箱館府
ヲ引移サレタルニ付箱館ニ運上所ノアルヘキ謂レナシ右ハ東京
城日誌ヲ以テ證スルニ足レリ
且又該證書金額ノ裏ニ付横濱運上所ニ於テ「シユーン」氏ヘ引合ヒ

セシ更ニ無之明治元辰年十一月六日西暦千八百六十八年十二月十九日「ホルト」ル社中「プロセリー」氏ヨリ該手形ノ金額拂方ヲ横濱運上所ヘ申出タレモ右運上所ニ於テ一切始末柄不存ニ付自分ヘ談判可致旨長官ヨリ命ヲ受ケ談判セシ時此書面ノ金額ハ元來箱館運上所ニ於テ約定セシ義ニ付當時青森表ニ設ケアル箱館府ヘ罷リ越サハ拂方ニ可相成旨申聞ケ置キタリ然ル處此手形金ノ拂方ヲ運上所ヘ申出タル日ヨリ利足相拂フヘキノ契約アルヲ以テ催促致シタルヿヲモ手記致シ呉ルヘキ旨強テ申立タルニ付止ヲ得ス名前ヲ手署シタリ

又「シュトン」氏ヘ該證書ノ寫ヲ差遣シタルヿ覺ヘ無之且歐文ノ手形ニ半紙ヲ用サタルハ運上所ノ規則ニ反スルナリ併シ該證書ノ寫ニ捺セシ印影ハ運上所ノ文字ニ相違無之其眞僞如何ハ保證致

難キ旨申立タリ

原告證據人「シュトン」氏申立ニ一千八百六十八年十二月十二日我明治元年十二月二十九日箱館運上所ヘ證文ノ眞僞ヲ尋ヲ云々トアレ共被告證據トスル東京城日誌ニ因レハ明治元年辰十月二十四日西暦千八百六十八年十二月七日官軍總督清水谷函館ヲ引キ上ケ青森ヘ移リ箱館ハ一旦賊軍ノ有トナリ明治二年巳五月十二日西暦千八百六十九年六月二十一日官軍函館ヲ回復スト見ユ之ニ因テ之ヲ見レハ明治元年辰十月二十九日頃西暦千八百六十八年十二月十二日箱館運上所ニ政府ノ官吏アルヘキ謂レナシ

庭井保濟舊名美之助カ横濱ニ於テ該證文ニ姓名ヲ記セシト雖モ姓名ヲ記セシノミニテハ金額拂方ヲ承諾セシ證據ニ相立タス其他長谷部杉浦等ニ關スル儀ハ都テ口頭ノ申立ノミナリ

斯ノ如クナレハ箱館運上所又ハ其他ノ官廳ハ「ワルメール、シュトン、

ミルソム」社中又ハ「ミルソム」氏ニ對シ證文金拂方ヲ許諾セシ確證之レナシトス

第三項ヲ審明センニハ舊津輕藩ノ官吏ト「ポルトル」氏トヲ取リ調ヘサレハ事實分明ナラス然ルニ原告ニ於テ最初「ポルトル」氏ヲ證據人トシテ可差出旨ヲ申立其後更ニ「ポルトル」氏ノ代リトシテ「ユースデン」氏ヲ出セシト雖モ舊津輕藩及ヒ舊箱館運上所ト「ポルトル」氏トノ間ニ關スル事項ハ「ポルトル」氏自カラ出ルニ非レハ事實分明ナラストス

前條々ノ理由ニ附原告ノ訴願相立タスト裁決セリ　明治九年十一月廿九日

大審院ニ於テ

原告ヲ「ミルソム」代人「ピーチス」上告ノ趣旨

第一　原告人右一件ニ付被告ヲ相手取テ原告貨物ノ爲ニ所有スル

處ノ「アヽヒー・ポルトル」ノ箱館舊運上所ノ認タル振リ手形金高元利共拂方ヲ請求シ東京上等裁判所ニ訟ヘ出タリ

第二　去年十一月廿九日右裁判所ノ右一件裁決セルニ原告ノ請求不相立日本政府ニ於テ原告人ニ對シ其振リ手形金高可拂義務コレナシト

第三　原告人ハ右裁判所ノ決斷ノタメ難澁ヲ極ムルニ付願クハ當貴院ニオヰテ右裁決ハ日本法律又ハ正理ニ相背クヲ以テ右裁決ヲ取リ消シ原告ノ爲ニ至當ノ御裁決アランコヲ

第四　原告請求ノ基ク譯柄ハ左ノ如シ

一右手形ハ轉讓スヘキ證書ニシテ當然ニ貨物ノタメニ原告人エ讓リ渡セルモノナリ

二舊運上所ニ於テ該證書ハ何人ニ不限貨物ノ爲ニ所有スル人ニ

對シ相拂フヘキ義務コレアル上ニ運上所ニ於テ原告ノ商會「フハルマル、ショイチ、ミルソム」ニ對シテ該手形上ノ義務ヲ度々確然見認シタリ

第五　原告人ノ右裁判ニ難澁不服スル譯柄ハ左ノ如シ

第一　右裁決ニハ該手形ハ轉讓スヘキ證書ナルヿヲ承諾スレトモ右手形ヲ元ノ請取人「ポルトル」ヨリ現在ノ原告人ヘ讓渡シタル商會エノ讓渡シ方ハ規則ニ背クトハ誤ニテ且全ク證據ヲ用イスシテ決斷セルナリ

第二　右裁判ハ千八百七十三年二月廿日附代辨領事「ツルーブ」氏ノ書翰ノ主意ヲ全ク取違ヘテ右手形ハ「ショイチ」ノ商會ノ所有物ニ相成ル手續ノ義ニ付テノ「ショイチ」ノ申立ヲ取消スモノト想フハ全ク誤ナリ

第三　右裁決ノ他ノ文明開化國ノ裁判ト共ニ日本裁判所モ守ル處ノ證據ノ規則ニ反シ正シキ四人同趣ニシテ被告言消ノナキ處ノ申立ヲ口頭ノ申立ナリト

第四　右裁決ノ無條理ナルハ千八百六十八年十三月十九日手形催促ノ爲メ差出セル趣ヲ庭井保濟ノ書記セルヿハ拂方ヲ承諾セシ證據ニ不相立モノナリト

第五　此ノ訴訟ハ手形差出人元ノ請取人ト現在ノ間柄トハ別義ニシテ關係コレナキヲ裁決ニハ此ノ訴訟ト手形ノ生シタル約定トニ附テノ「ポルトル」ト津輕藩トノ間柄ヲ無理ニ混雜セリ

右之譯柄ヲ々辨論可申上ニ付貴院ノ御明察アランヿヲ願フ

第一　裁判所ノ説示スル處ノ證書幷ニ手形ノ渡方ニ付テノ習慣ノ義ハ甚不服致ス處ナリ何トナレハ當今日本ノ法律ハ其説示ノ如ク

ナルニモセヨ手形ノ元請取主ヨリ「フハルマル、シヨイチ、ミルソム」ノ商會ヘ讓渡セルハ則チ千八百六十八年ニシテ其節日本國ニ於テ決定テ右ノ如キ習慣法ヨレナキヿハ必セリ且該證書手形讓渡ニ付テノ說示ハ佛國ノ交易法ニ基クモノト思察ス而テ其習慣ハ日本英國ノ習慣ニ齟齬スルナリ該手形ハ英國人タル請取主ヨリ全ク英國法律ト習慣トニ從テ讓渡セシモノナリ夫ノ先方ノ名ヲ認スシシ自ラ奥書シテ貨物ノタメ讓受主ニ引渡セルハ英國慣用ニ從フモノナリ然ルヲ裁判所ノ決斷ニハ該手形ニ名宛ナキ奥書ノアルヿヲ全ク見認セサルナリ如此緊要ナルヿヲ見認セサル過失アルヲ以テ始終其裁決ヲ誤レリ如此奥書ノアルヿヲ裁判所ニ於テ見認スルハ其義務ニテ若シ之レヲ見認スル時ハ尙英國法律上ニ於テハ其奥書ノアルヿノ意味ハ何等ノモノナルヤト調ヘサル可ラサル處ナリ而シテ此ノ手

形ノ義ニ付テハ英國法律ハ全ク手形引渡クル時ノ日本ノ習慣ニ能ク符合セリ貴院ニ於テモ名宛ナキ奥書ノ效用ハ證書手形ヲ論セス其所有主ニ對シテ拂フヘキ義務アルヿハ詳悉アルモノト思料ス「ポルトル」ノ該手形ヲ名宛ナキ奥書ニテ貨物ノ代トシテ「プハルマル、シヨイチ、ミルソム」ノ商會ヘ引渡シ其後彼等又貨物ノタメニ現在ノ原告人ヘ讓渡セルモノニ付原告人ノ拂方ヲ請求スルノ權利ハ斷然適當セサルモノナリ

然ルニ要點タル奥書ノアルヿヲ見認セサルノミナラス其證書振リ手形ノ讓渡方ニ付テ習慣ノ說示ハ大ナル齟齬スルモノニシテ未タ賴受主ノ即拂方ノ承諾濟サル以前ノ證書ニ付テハ適當ナリト雖モ賴受主承諾セル後日又ハ手形ニ付テ言フ時ハ全ク道理ニ背戻スルノ說示ナリ證書ト手形ノ第一義タル區別ハ左ノ如シ證書ニ於テハ第一

宗金高ナル拂フベキ人即チ賴受主ニ於テハ承諾ノ有無少シク難討モ之ナレトモ手形ニ於テハ其認主ハ即チ賴受主ト同義ナルモノ故ニ固ヨリ拂方ノ承諾ハ分明ニ確固タルモノナリ承諾セサル證書ニ付テノ法律ノ道理ヲ直チニ手形ニモ相當スルモノト思想引用シ此ノ一件ノ生シタル書類ヲ誤解ス又裁決ヲ誤ル處ナリ

第三ニ「ヨースデン」氏並ニ「コートレリエル」氏長谷部杉浦兩氏ニ面會ノ義ニ付テノ申立ハ口頭ノミヲ以テ採用セサルハ甚奇異ト言フベシ若シ貴院ニテ該裁決ヲ適當トスルナレハ外國人ハ日本裁判所ニ道理ヲ求ムルハ無要ノコトニ屬スルモノニテ英國領事自ラ成セル處ノ實事ト引合ニ付テノ誓書モ右ノ如ク採用サレサルハ外國人カ日本ノ裁判所ニ證據ヲ申立ルコトハ甚タ無益ノコトニシテ而ノ其申立ヲ採用サレサルノ尤道理ニ戻ル所以ハ今假ニ「ヨースデン」氏ノ

ル」ノ申立ハ詐僞ナルモノトスル時ハ長谷部杉浦兩氏ノ容易ニ辨駁シ得ベキ所以ナリ然ルニ兩氏ヲ證據トシテ呼出セシコトナキハコレ裁判所ニ輕々敷看過シテ採用セラレサル處ノ原告ノ申立ヲ適實ト見做スノ外ナキナリ原告人ノ不服スル第二ノ譯柄ハ兩人ノ同趣ナル證據ノ被告ノ辨駁ヲ受サル申立ヲ採用セラレサルハ各開化國ノ裁判所ト共ニ日本裁判所モ守ル處ノ裁判ノ道理ト習慣ニ違ヘ

第三ニ右裁判所ニ於テハ「ツループ」氏ノ書翰ノ意味ハ「シヨイチ」ノ手形ニ所有スル手續ニ付テノ「シヨイチ」ノ申立ニ些少ニテモ違ヘリト思想シ全ク誤解スル處ナリ抑モ名宛ナキ奥書ノ證書又ハ手形ハ何人タリ共貨物ノ代トシテ引渡サレタル人ノ所有物トナル故ニ貨物ソノタメ讓受主ハ充分ニ元ノ請取主悉皆ノ權利ヲ讓受ルモノニシ

ヒ[フセル]ヤウニ、シヨウホウミルソム[商會]ノ手形所有主タルハ恰モ如此而シテ彼等ハ横濱ニ於テ拂方ヲ請求セシニ其時横濱ニ在ル舊運上所ノ官吏庭井保濟其趣ヲ記載スヘキ義ナルヲ以テ記載セリ其後ニモ度々拂方ヲ約束セリ然ルニ其内[ポルトル]破産スルヲ以テ該手形ノ持主タル[フセル]ヒ[ヒ]ルシヨイチ、ミルソム[商會]ニ於テハ該手形ノ金額拂方未タ濟サルニヨリ直チニ[ポルトル]ノ財産ニ對シテ請求スルヤ又ハ拂方ヲ約束スル手形ニ付運上所ノ金額拂方ヲ待ツカ兩樣共ニ決セサルヲ得サル場合ニ至レリ若第一義即チ[ポルトル]ノ財産ニ付テ催促スル時ハ該手形ヲ其財産預主ニ返却シ其預主ヨリ運上所ヲ相手取テ拂方ヲ請求シ其金額ヲ諸債主ニ配賦スヘキ譯ナリ然ルニ彼等第二義即チ運上所ニ對シテ請求スルハ英國破産律第四十條ニ由テ兩樣ノ内第二義ニ求メ該手形ノ金額ヲ減算シ其殘リ高ヲ

其財産預主ニ請求スルニ決セシ上ハ該手形ハ[ポルトル]ノ他ノ債主ニ對シテハ彼等ノ所有物ニ非サレハ裁判所ノ説示スル所ノ[フセル]ヒ[ヒ]ルシヨイチ、ミルソム[商會]ノ[ポルトル]ヨリ手形ニ讓受ルハ通常ノ拂方ニセスシテ抵當トシテ讓リ受タリト思察ヲ誤ルハ英國破産律第四十條ノ意ヲ違ヘル事又ハ[ジヨイチ]氏[ユーステシ]氏ノ申立ヲ採用セサル事ト又ハ名宛ナキ奥書ノ證書或ハ手形ノ貨物ノタメ只引渡ノミニテ其所有ノ權利モ讓受主ニ引移ルノ法律ノ道理タルヲ知ラサル事右等三ケ條之義ヲ誤マルニ基ク處ナリ且英國破産律ノ道理ニ於テハ該手形ハ破産人ノ奥書アリテ運上所ノ效力アルヲ以テ全ク抵當ニ云フモノナリ[illegible]原告人ノ貴院ニ御明察ヲ願フ處猶アリ裁判所ノ[ソルリプ]氏ノ書翰ノ主意ヲ違ヘルノミナラス假令ヒ讓渡サスシテ全ク抵當ノミトシ

テ「フルマル、ジョイチ、ミルソム」商會ヘ手形預置ニモセヨ此ノ訴訟ニ於テ全ク關係ナキモノナリ如何トナレハ「ポルトル」破産セル上ハ直チニ原告人ノ所有物トナリ而シテ被告該手形ヲ認シ日ヨリ擔當ノ義務斷ヘス其拂方ヲ拒ムコハ其破産セル余程後年マテハ曾テ非サリキ

第四　裁判所ハ明瞭符合スル證據人ノ申立ヲ口頭ノミヲ以テ採用セサルヿミナラス又ハ嚴重ナル所業ヲモ法律上ノ通例適當ナル意味ト見做サス如何トナレハ運上所ノ官吏庭井保濟ニ文中ノ利息ハ催促ノ日ヨリ取得ヘキタメ催促セルヿヲ手形ノ紙面ニ認メ調印セシヿヲ依賴セル處適當ノ譯柄ナル故ニ同人調印セリ其上庭井氏ノ申立ニテモ書記セシ義ハ手形ノ所有主ノ其日ヨリ利息ヲ得ン爲メ其申立ヲ申聞ラシ能ク承知シテ催促シタル義ヲ書記セシヿナリ然ル

ヲ裁判所ニテハ庭井氏ノ該手形ニ調印スルハ運上所ノ該手形上可拂ノ義務ヲ承諾スルニアラスト裁決セリ即チ世界普通ノ道理ト交易ノ習慣トニ戻ルモノナルニ付キ貴院ノ右裁決ヲ取消シテ御明斷アランヿヲ企望スル處ナリ

第五　此ノ事件ハ津輕藩ト「ポルトル」氏トノ約定ノ直不直ニ係ハラス「ポルトル」ニ於テ遂ニ約定ノ通リナシタルカ成サヽルカハ此ノ訴訟ニ關係スルトノ思想ハ全ク違ヘリ其約定ノ第二義ハ前金トシテ壹萬五千兩「ポルトル」ガ受取ルヘキ譯ナル金額ノ内ニテ該手形ヲ金子ノ代ニ受取シル故ニ該手形ノ金額元利共ニ拂方正シク相濟ムニ至ル迄ハ約定上他ノ箇條ハ右第一義ニ基イタル通リ致セシヤ否ヤノ論ヲ初告ニ於テ立ヘカラサルノ理ナリ被告ニ於テ右手形ハ違約ニ及ハサル前ニ認主ノ充分ナル承諾ヲ得テ原告ノ商會ヘ讓渡セ

リ然ル所其拂方ヲ始テ斷然拒ミシハ三箇年ノ後ヲ經過セリ其上之ヲ拒ムハ運上所ニハナクシテ外務省ニ於テス而シテ該省ノ拒ム所ノ陳述適當ナラサルト申立ル處ノ譯柄ハ原告ヨリ裁判所ニ差出タル論辨書ニ明瞭ナリ

原告人謹テ按スルニ此訴願ヨリ道理明白證據充分ニ具ハル處ノ訴訟ハ曾テ裁判所ニ訴出セシコトナクシテ其尤ナル義ハ明瞭ニシテ一言ノ辨駁モ成シ得サル處ノ前ニ裁判所ニ差出タル二箇論辨書ニ詳明セリ故ニ原告訴願相立ストノ裁決ハ他ナシ法律上ノ誤解ニ基クモノナリト思料ス

被告　日本政府大藏省代人北村泰一ロベルトビートソン

答辨ノ趣旨

第一　上告狀第一項ニ記載スル證書ヲ指シテ斷然約定證券（ブロミツソリノート）ト稱スル

ルハ被告政府ニ於テ敢テ承伏セサル所ニシテ該證書ハ約定證券或ハ其他通例轉讓ヲ爲シ得ヘキ證券ノ性質ヲ有セス是レ曾テ之ヲ有セシコトアラサリシノミナラス該證書ハ金額拂方ヲ約スル約定書ニテ其性質轉讓スヘキ證書ニアラス又其後ノ取引上ニ於テ轉讓スヘキ證券ニ變換シ能フヘキモノニモアラサルナリ

第二　上告人ニ於テハ曾テ該證書ヲ以英國ノ法律ニ隨テ轉讓スヘキモノタルヿヲ明證スルヲ試ミサリシナリ而シテ只單一ニ日本ノ法律ニ依テ轉讓スヘキモノナリト證言セリ其證言該事ヲ證スルニ大關係ヲ有スル上告人ノ社中タル「シユーン」氏ノ口供ニ出ルモノニシテ上告人カ「上等裁判所ニ於テ被告政府答辨ヲ再駁シタル原告辨白中該事ニ就キ更ニ一言ノ辨駁モ爲サヽリシト云フカ如キ單一且淺近ナル申立ニ就テハ被告證人等ニ於テ充分且詳細ニ辨駁シ加之運

上所官吏カ該證書ハ「ポルトル」氏ニ限リ拂フヘキモノタル旨ノ理由ヲ以テ「ワルメール」「シユーン」及ヒ「ミルソム」社中ニ其拂方ヲ拒ミタル所爲「上告人ノ自證中」ニ於テモ亦明白ナリ

第三　人アリ若シ約定書ニ就テ其金額ヲ請求セントスル時ハ之レヲ受取ヘキ權利ノ事由ヲ明示セサルヘカラサルコ一般ノ成規ナリ即チ其約定書ニ掲ケタル自己ノ義務ヲ遂ケタルコヲ證明セサルヘカラス然レトモ通常ノ手形或ハ證券ト唱フヘキモノニ至テハ英國ノ法律「一般ノ定則トシテ」中ニ右等ノ證券ハ他ニ故障アル明證アラサレハ價位アルモノト之レヲ見做スナリ蓋シ其價位ノ有無ヲ示スノ義務ハ拂方ヲ拒ム處ノ人ニアリ且假令已ニ其證書ニ關係ノ本人ト本人トノ間ニ價位ヲ失ヒタルモノト雖モ若シ中間ニアル所有主ニ於テ其價位ヲ失ヒタルコヲ知ラスシテ之ヲ受取リ以テ價位アル

モノト爲セシ時ハ猶其後ノ所有主ニ於テ之レカ辨償ヲ求ムルコヲ得ヘシトアリ

第四　然リト雖モ右等ノ如キ證書ノ爲メ設ケタル此特殊ノ定規ハ全ク嚴ニ其部類ニ屬スル證券ニ限ル事ニシテ例ヘ些少タリトモ其證書ノ信用ニ就テ疑ハシキ形狀アルニ當テハ前顯ノ例ヲ適用スルヲ得ス而シテ總テ此等ノ事情判然タルニ至テ初メテ所持人ニ於テ其證書ヲ最前受取タル者ヨリモ尙正シキ請求ノ權利ヲ得ヘキナリ故ニ今般ノ事件ニ於テハ第一ノ要務即チ證書ノ讓與ヲモ遂ケサルハ上告人ニ於テハ本人タル「ポルトル」氏ノ有セシ權利ノ外他ニ該證書ニ就テ其權利ヲ有シ能ハサル事明白ナリ已ニ其社中ニ於テ最前「シユーン」氏カ該證書ノ金額ヲ受取ラント試ミタル時ハ「ポルトル」氏ノ名義ヲ用ヒタリ此事實ヲ以テ該證書ハ即チ其指名人ノ名義ニ限

リ拂方ヲ請求シ得ヘキ約定書タルヿ明カニシテ今茲ニ討論スル諸人ニ於テモ亦當時然リト見做セシヿノ充分ナル確證ナリ因テ本人ニ對シテ適當スル辨白ハ該事件ニ就キ委托者ノ權利ノ其後ニ轉傳セシ人ニ對シテモ亦等シク適當スルモノナルヘシ且〔ポルトル〕氏ニ於テ約定ヲ破リシカ爲ニ該約定書ニ就テ同氏ノ請求スル能ハサリシヿハ現ニ陳論スルヲ要セス故ニ同氏ノ權利ヲ受タル他人ニ於テモ亦之レヲ請求スヘキノ條理固ヨリ有ルヿ無シ

第五　原告人カ政府ニ於テ該證書ノ轉讓スヘキモノニアラサルトノ理由ヲ主張シ此請求ヲ拒絶スルヲ以テ即チ政府ハ術理上ノ抗拒（ラクニカル　ナンセック）ニ由テ其自ラ己レノ利スルモノナリトシテ不服ヲ該裁判所ニ申立タリ（ション）然レトモ是レ固トニ正實ナルヿニシテ其抗拒タル所以ノモノハ猶之レヲ適法ナリト云フニ同シキ所ノ術理上ナルニ由テ然ルナリ」

然ルニ上告人ハ自ラ適法即チ術理上ニ觸ルヽト認メタル該證書ヲ轉讓スヘキモノトシテ論センカ爲メニ此適法即術理上ノ辨駁ヲ裁判所ノ採用アラサランヿヲ請ヘリ而ル後チ證書類ノ一部類タル其部類ニ限リテ屬スル所ノ總テノ適法即チ術理上ノ利益ヲ己ニ得シ事ヲ求メリ何トナレハ末章ニ明示セシカ如ク轉讓スヘキ證書類ニ屬スル術理上ノ成規ヲ藉ルニアラサレハ上告人ニ於テ〔ポルトル〕氏ノ權利ニリモ正シキ權利ヲ得ル能ハサレハナリ

於是乎原告人ハ此訴訟ニ勝ヲ得シカ爲中心大ニ惑ヒ其兩ナカラ必需トスル二項ノ論議ヲ主張セントス然レトモ其論議タルヤ互ニ反對シテ両立スル能ハサルナリ何トナレハ第一ニ上告人ハ該證書ヲ英國ノ證書トシテ論セス假令持參人ニ拂渡スヘキ證書ニアラサルモ只之レヲ轉讓スヘキモノト認メシヿヲ求メリ〔之レ英國ノ證書ニ於

テハ曾テアラサルヿナリ〕第二ニ該證書ノ元交付人カ所有セル權利ヨリモ上告人ニ於テ尙正シキ權利ヲ〔時宜ニ依リ〕得ヘキ所ノ一種固有ノ性質ヲ該證書ニ與ヘンカ爲英國法律中同シ適法ノ成規〔即チ此前ニ之レヲ適用スルヲ拒ミシ法律〕ヲ引用セントシテ英國ノ證書ト見做サレンコヿヲ請ヘリ乃チ上告人ハ心中惑ナキ能ハサルナリ何トナレハ若シ英國ノ法律ヲ適用スル時ハ一方ニ於テ其論議立タス又之レヲ引用セサレハ他ノ一方ノ論議地ニ墜ツレハナリ

第六　然レトモ議論上ヨリシテ常ニ該證書ハ約定證劵（プロミスソリーノート）ト見做シ得ルモノトスルノミナラス上告人ニ於テハ此故ヲ以テ〔ポルトル〕氏カ該證書ニ就テ拂方ヲ請求シ能ハサリシコヿノ情實ハ同人或ハ同人社中ニ敢テ關セサルト陳辨セリ蓋シ〔前條々述ヘシカ如ク〕時宜ニ寄リテハ英國ノ法律ニ於テ此便益ノ約定證劵ニ屬スルコアリ而シテ上告

人ハ此故ヲ以テ前章ニ明示セシカ如ク該成規ノ便益ヲ得ンカ爲メ此事件ニ就テ英國法律中ノ此特殊ノ成規ヲ適用センコヿヲ求ムルナリ然レトモ此證劵〔議論上ヨリ斯ク唱フ〕ノ發出及ヒ讓與ニ際會セシ場合ニ於テハ此成規ヲ適用スヘカラサル事判然タリ何トナレハ今般ノ事件ニ於ルヤ該證書ヲ相渡セシ原由タル約定ヲ本人ニ於テ破リタルカ故ヲ以テ該證書ハ其本人所持主ノ手ニアリテ既ニ廢物トナリタルモノナレハ證劵ノ信用ニ就テノ成規ハ疾ク已ニ之レヲ適用スルヲ得サレハナリ而シテ上告人及ヒ其社中ニ於テ〔但シ上告人及ヒ其社中ハ一般ノ事情ヲ探知スルノ關係ニ於テハ同一ナリ〕該事實ヲ知ラサリシヿ及ヒ相當ノ推問ハ爲シタレトモ其事實ヲ發見シ能ハサリシヿヲ明證シ且又該證劵ヲ價位アルモノト見テ受取リタルヿヲ上告人ニ於テ明示セサルヲ得ス然ルニ上告人等ニ於テハ是レ等ノ

事ヲ毫モ證明セサリシナリ

第七　一體ノ情實ニ至テハ左ノ如シ該約定書ハ「ポルトル」ニ於テ最初千八百六十八年九月十五日我明治元戊辰年七月二十九日ニ違約シ其後十月二十六日我明治元戊辰年九月十一日ニ亦之レヲ破レリ因テ其約定全完ノ爲猶三四十日間ノ日數ヲ延期シタレ𪜈其期限ニ至テ再ヒ之レヲ破約セリ是レ實ニ其最後ハ千八百六十八年十二月五日我明治元戊辰年十月廿二日ナリ而シテ「上告人カ其訴狀中ニ僞證セシカ如ク該證書ヲ「ワルメール」「シユーン」及ヒ「ミルソム」社中ニ讓與セシハ該約定違約ノ前ニアラスシテ而カモ再度及ヒ最後ノ破約後ニアリ則チ「シユーン」氏自己ノ證言ニ依レハ十二月十二日我明治元戊辰年十月二十九日或ハ上告人ニ於テ其證言ヲシテ特別ノ日ニ定メタルヲ不服トスレハ十二月十二日頃ナリ然レ𪜈其時日ヨリ以前タラサリシ事ハ再ヒ「シユーン」氏自己ノ齒牙ヨリ同氏ハ僅

カニ函館ニ四日或ハ五日滯在シ十四日我明治元戊辰年十一月朔日マテハ同所ヲ出發セサリシヲ以テ其事實明白ナリ

第八　由是觀之最後即チ十二月五日我明治元戊辰年十月廿二日後ニ於テ該證書ハ「ポルトル」氏ノ手中ニアリテ已ニ廢物トナレリ今若シ其證書カ約定證券ノ通常文例ニシテ其表面ニ價位ノ性質ヲ記載セサリシ時ハ此場合ニ於テハ恐ラクハ上告人ノ地位ニ於テモ亦相變更スヘシト雖モ其社中ト津輕藩トノ間ニ取結ヒタル小銃約定ニ付云々トノ文辭アル以上ハ該證書ノ性質ノ如何ハ即チ「ポルトル」氏ノ方ニ於テ仕遂クヘキ約定書タリシヿ瞭然ナリ然ルニ「シユーン」氏ノ此文詞ヲ熟見セシ時ニ方テ聊モ該約定ノ存廢ニ就テ推問ヲ爲サヽリシハ最モ不審ノ至リナリ若シ又同氏カ事實其推問ヲ爲サヽリシナレハ之レ同氏自己ノ失錯ニシテ何レノ道ニ因ルモ該證書ニ就テハ「ポルトル」

氏ノ有セシ權利ヨリモ正シキ適法ノ權利ヲ得ル能ハサルナリ又該證書ヲ以テ約定證券トシテ論シタル此二項ト前三項ノ論辨ハ只原告ノ其議論上ニ渉リテ暫該證書ハ轉讓スヘキモノナリト見做シ主張スルノ理由ニ由テ之レヲ駁シタルモノナル事ヲ貴院ニ於テ明瞭アランコヲ謹テ希望ス

第九　又上告人ノ强テ主張スル自余ノ件ハ運上所官吏ニ於テ拂方ヲ承諾セシト云フ箇條ナリ先最初ニ該證書ニ就テ拂方ノ承諾ヲ幾回爲スモ轉讓スヘカラサル證書ノ適法固有ノ性質ヲ有スルカ如キ證書ニ變更スルノ功用ハ少シモ爲サヽル事ヲ前述セサルヘカラス而カモ證言ヲ調査スル時ハ此引證セシ承諾ト云フハ實ニ輕々タルヲ徵スヘシ第一其承諾ヲ爲セシト云フ原告證據人等ノ口供ヲ辨論スルニ方リ上告人ニ於テ其上告歎願書中ニ上

等裁判所ノ裁判申渡書ニ用ヒタル言辭ヲ顚倒シテ是ヲ非ニセシコニ貴院ノ注目アランノ事ヲ請フ抑上告人ハ裁判不服條欵ノ中第三及ヒ再ヒ其不服ノ趣旨ヲ詳細ニ陳論スル處ノ第二章ニ該裁判所ニ於テ其證據人等ノ口供ハ口頭ノミナルヲ以テ採用セサリシト云ヘリ右裁判所ニ對シ斯クノ如キ言ヲ吐クノ故ヲ以テ貴院ニ於テ上告人ヲシテ該裁判所ニ對シ不敬トシ且一般正理ノ行政ヲ貴重セサルモノトシテ之レヲ此歎願書中ヨリ刪除セシメラルヘシ右裁判申渡書ヲ閲スルニ該裁判所ノ裁判申渡書中ニ實ニ云フ所ノモノハ〔庭井カ催促ノ事ヲ記載セシコヲ除クノ外〕總テ其他拂方ヲ承諾セシト云ハ口頭ナリ云々トアリ由之觀是上告人ニ於テ其裁判ニ過誤ヲ負ハサシカ爲該裁判所ノ言辭ヲ顚倒シテ是ヲ非ニセシナリ然レトモ此證書ノ部分ニ就テ該裁判所ノ眞ニ辨明セラレタル趣旨ハ逐一固ニ正實ナ

ルモノニシテ貴院ニ於テモ亦之レヲ採用セラルヽ所ナルヘシ則チ該證書ハ上告人ノ爲メニ利益ヲ與フルカ如キ眞實ノ承諾ヲ證明スルニ足ラサルナリ

○第一ニ其證言タルヤ八九年モ經過シタル既往ノ口頭ニ係ハル談話ヲ今日ヨリ之レヲ想像シ而テ只其說明ヲナスニ止マル故ニ斯ノ如キ談話ハ其之レニ關係ヲ有スルノ人々ニ於テ再三說明スルニ方リテ其言ヲ左右シ其人々ノ欲スル所ニ適當スル意義ヲ來タス太タ容易ナルモノナリ而シテ其意義モ亦常ニ之レヲ主張セントスル所ノ希望ニ從テ終ニ其意中ニ浸染シ乃チ只其談話ノ一體ノ趣意ヲ再說スルニ及テハ既ニ知ラス識ラス僞ヲ以テ眞トナスニ至ルハ敢テ怪シムニ足ラサル所ニシテ亦自然ノ勢ト謂フヘキナリ況ンヤ其談話ハ數年前ノコトニ係リ且互ニ雙方ノ語ヲ熟知セサル人々ノ間ニ於

テ爲セシ所ノ談話ニ於テヲヤ○第三ニ此談話ニ關スル總體ノ證書ヲ觀ルニ其承諾ト唱フルモノヽ內其適法ナラスシテ且權外ナルモノアリ就中原告人ニ於テ最モ依賴スル所ノ千八百六十八年十二月我明治元辰年十月中函館ニ於ケル承諾ノ事是レナリ當時ハ已ニ政府ノ官吏タルモノ惡ク同所ヲ引拂ヒタル時日コシテ其事實モ亦當時原告人社中ニ於テ熟知スル所ナリ且第三ニ前顯ノ承諾ト唱フルモノハ只該證書ノ眞正タルヲ承認シタルニ過キサルノミ而シテ該證書拂方ヲ爲スヘシトノ言ハ只小銃約定ニ付云々トアル證書ニ關スル事ト見解スルヲ得ヘシ故ニ到底其由來スル所ノ約定全完結局ニ於テ始テ拂フヘシトノ說明ニ過キス復タ敢テ他意アルニ非サルナリ且右ノ如キ承諾ヲ爲セシト云フ官吏ノ內過半ハ其約定ノ已ニ全完セスシテ破約トナリタルヲ知ラサリシヿ其證言中ニ於テ亦判然タリ

第十然ルニ此事件ニ就テ上告人ノ主張スル所ハ即チ不幸ト謂フヘキノミ何トナレハ其主張スル所ニ反對スルモノ兩件アリ○第一ハ其重立タル證人「シユーリン」氏ノ一般證言ノ價値ヲ悉ク墜却シテ其承諾ノ事件ニ就テノ證言ヲ不意ニ轉倒セリ何トナレハ「シユーリン」氏ノ證書中ニ同氏ヨリ拂方ノ催促ヲ爲セシ時庭井氏ハ其催促ノ事實ヲ記載セシト云ヘリ然ルニ庭井氏ノ云フ處ニ據レハ同氏ハ曾テ横濱ニ於テ「シユーリン」氏ニ面會セシヿ無シ但「プロモリー」氏ヨリ拂方ヲ催促セシニヨリ其事ヲ記載セシト

第二ニ上告證人ノ齒牙ヨリ確乎ト證明セシ處ノ該事ハ假令其催促ノヿヲ記載セシヲ以テ上告人ニ於テ如何ナル便益ヲ得ヘシトナスモ亦其實際果シテ同氏ノ申立シ如クナレハ總テ其理由ヲ消滅ニ屬スルナリ何トナレハ該證書所有本人ノ催促ニ於テ只之レヲ記入セ

シ迄ナレハ斯ノ如キ記名ノ事實ヲ以テ官吏ニ於テ讓與ノ正實タルヲ其後ニ承認セシ證明トシテ論辨ヲ費サント欲スト雖已ニ能ハサレハナリ前條ノ情實ナルニ由リ此一條ニ於テモ原告人ノ主張スル理由ハ其訴狀ノ不條理ノ申立ト其證人ノ信スヘカラスシテ且該事ニ關係ヲ有スル證言トニ對シ其事實及ヒ時日ヲ說明スルニ於テ彼自ラ其理由ヲ消滅ニ歸セシメタリ

第十一　今其上告人申立ノ緊要ナル條件ニ就テハ已ニ之レカ答辨ヲ了シタリ然レトモ尙ホ是レヨリ被告政府ハ其訴狀中別段ノ申立及ヒ論旨ニ就テ其條理ノアラサル所以ノモノヲ明示センカ爲更ニ辨論ヲ爲スヘシ

上等裁判所ノ裁判ニ就テ上告人不服ノ條款ヲ詳細スル第一章ノ答辨トシテ被告政府ニ於テ陳辨ス抑轉讓スヘキ證書ヲ名宛無キ奥書

ヲ以テ之レヲ持參人ニ拂渡シヲ爲スハ一般ノ成規ナリト雖モ該證書ノ如キ轉讓スヘカラサル證書ノ奥書ニ於テハ其功用ヲ有セサルナリ故ニ該裁判所ニ於テ其奥書ノ事項ヲ不問ニ置キシハ實ニ正理ナリト謂フヘシ前顯ノ如キ記載ハ假令雙方〔「ポルトル」氏ト「ワルメール」社中ト〕ノ間ニ於テ如何ナル功用ヲ有スヘシト雖モ被告政府ニ於テハ敢テ關係セサルヿ當然ナリ因テ此論旨ヲ以テ主張スル上告人ノ陳論ハ總テ地ニ墮ツルナリ

第十二　上告人不服ノ條款ヲ詳細セル第二章ニ掲ケタル該裁判所ノ言辭ニ就テ上告人ヨリ詐僞ノ申立及ヒ事實相違ノ廉等ハ前章中ニ充分論辨セリ然レヒ尚ホ該證據人ノ證書ニ就テ一言ノ辨駁モナシト輕忽ナル申立アリ亦既ニ上等裁判所ニ於テ再三再四之レヲ辨駁セリ〔貴院ノ閲セラルヘカ如ク〕即チ函館ニ於テ當時官吏ノアラサル際同所運上所官吏ニ於テ拂方ヲ承諾セシト云フカ如キヲ又催促ノ事ニ就キ前ニ云ヘル〔シユーシ〕氏ノ證言ニ於ケルカ如キトハ雨ナカラ其實際ヲ證明スル能ハサリシヿ及ヒ被告證人等ノ確然且直接ナル證言ヲ以テセシヿハ敢テ貴院ノ注目アランヿヲ請フ

第十三　同シク不服ノ條款第三章ニ答辨ス抑〔ポルトル〕氏ノ破産一件ニ關シ在函館英國領事〔ツルーブ〕氏ヨリ上告人社中ニ差送リタル書簡ノ趣旨ハ其社中ノモノ自身出席セサレヒ代人ヲ以辨理セシメタル債主集會ニ於テ決定セシ巨細ノ情實ヲ其社中ニ辨明セシモノナリ而シテ其事情タルヤ上告歎願書ニ述フルカ如キノ事情ナリト雖モ尚故ラニ上告人ハ此事件ニ就テ裁判所ノ意見ヲ誣シヿヲ力メリ

抑該件ニ就キ該裁判所ノ裁判ニ於テ全ク決斷スル所ノ主旨ハ即チ

右證書ヲ以テ[ポルトル]ノ家產ニ對シ抵當トシテ原告社中ニ預リ居タルモノト認メ而シテ上告人モ亦自ラ此同章中ニ判然ト右ハ即チ抵當ナリシヿヲ陳述セリ然ルニ猶故ラニ裁判ノ同事ヲ說示スルヲ不服トセリ

而シテ[ツループ]氏ノ書簡中此論ヲ動カシ得ヘキ說示ハ一ツモ見サルナリ是レ全ク代人ヲ以テ辨理セシメタル上告人社中ト破產事務ヲ取扱ヒシ領事官トノ所爲ニシテ其一休ノ手續タル左ノ如シ蓋シ上告人社中ハ[ポルトル]氏破產ノ際該證書ヲ抵當ニ預リ居タルニ因テ領事ニ於テハ貸金高中ヨリ其抵當ヲ引去リ殘金ノミノ債主タルトモ或ハ諸債主一般ノ爲メ抵當ヲ返却シ總貸金ノ債主タルトモ此兩樣ノ內孰レヲ取ルモ同社ノ隨意タリシヿヲ決定セリ是時ニ當テ同社ニ於テハ最初ノ方(但シ該事ハ此論旨ニ關ラサレモ)ヲ取ラン事

ヲ希望セリ而シテ領事ハ此希望ノ如ク其事ヲ許可シ且之レヲ決行セラレタリ是レ乃チ該證書ヲ以テ[ポルトル]ノ家產ニ對スル抵當ト見做サヽレハ爲シ得ヘカラサル事ニシテ此事實ヲ以テ亦其正實タル性質ヲ知ルニ足レリ且ツ當時迄其所持人ハ[ポルトル]氏ニ對シ請求ヲ爲スヘキ證書ト見做シタルヲ見ルニ足ルヘシ然ルニ上告人ハ其社中ニ讓受タル後ハ最早[ポルトル]氏ニ於テ之レニ關係ヲ有セスシテ所持人ニ於テ[ポルトル]ニ拘ラス證書ノ授與人ニ對シ請求スヘキノ理アリトシテ之レヲ主張セリ而シテ該證書上ニ就テ當時迄ハ前條ノ見込ナリシヿノ證據猶欠クル處アレハ其證明ハ左ノ事實ヲ以テ判然ナリ即チ破產後[ポルトル]氏ト上告社中ノ間ニ不和ノ生セシ以前ハ該證書ニ就キ曾テ上告人ニ於テ自己ノ權利(最モ意味アル事實)ヲ以テ拂方ヲ促スヲ試ミスシテ其以前ハ勿論千八百七十年ノ

後ニ至ル迄尚其請求ハ〔ポルトル〕氏ノ權利及ヒ其名義ヲ以テ之レヲ促セシノミナラス〔ポルトル〕氏自ラ之レヲ促セシノ事實是レナリ

第十四　前書歎願書ノ同章中今一條ノ事實相違ノ申立ト云フハ〔ポルトル〕氏ノ破産後尚數月間該證券ノ拂方ヲ拒マサリシトノ事項是ナリ抑〔ポルトル〕氏ノ破産ハ千八百七十一年十一月十八日我明治四辛未年十月六日ヲ以テ初期トナス然ルニ〔運上所ニ於テ拂方ヲ拒ミシヿヲ記載セス〕其以前該請求ヲ公然ト政府ニ差出シテ少クモ兩回之レヲ拒絶セラレタリ即チ其年月ハ實ニ千八百七十年〔二月二十八日我明治三庚午年正月廿八日〕中ト復タ千八百七十一年三月二十二日我明治四辛未年二月二日ト云フニ於テス而カモ此兩回トモ英國公使カ請求人ニ代リテ辨理セシモノナリ

第十五　同シク不服條款第四章ノ論ハ此答辨書ノ第十項ニ全ク對合シ且其中ニ辨駁ヲ爲セリ故ニ今注目ヲ要スヘキモノハ只其項中

ニモ再ヒ該裁判所ノ言辭ヲ顚倒シテ是ヲ非ニ爲セシ說示アルノミ

第十六　同シク不服條款第一章及ヒ其末章ノ論ハ此答辨書ノ首端數項ノ中ニ充分對合シ且其中ニ辨駁ヲ爲セリ即チ〔ポルトル〕氏ト該藩〔今日政府ニ於テ代辨ス〕トノ間ノ關係ニ於テハ該件ノ裁判ニ就テ毫モ關係セサル事ヲ上告人ニ於テ辨論スルト雖ヒ此ノ訴訟ノ總體ノ裁判ハ全ク此關係ニアリテ上告人ノ極利ハ〔ポルトル〕氏ノ權利ト其存亡ヲ共ニスル事ハ前書答辨中ニ確然明證セリ

〔ポルトル〕氏カ此金額ニ就テ請求スル能ハサルノ理由ヲ辨論スルハ無益ニ屬スヘシト雖ヒ上告人ノ主張スル誘惑ノ論辨ト詐僞ノ申立トニ至テハ之レヲ辨駁セサルヘカラス上告人ハ其論辨中該藩ニ於テ〔ポルトル〕氏ニ拂渡セシ金額ヲ取戻スヿヲ得サル以上ハ決シテ〔ポルトル〕氏ニ於テ其約定ヲ破ラサリシ〔故ニ其約定全完ノ爲此金額ヲ

受取ルヘキ理由アリ」ト陳論セリ蓋シ上海ニ在ル判事モ上告（譯者曰ポルトルノ上告）ニ於テ該事件ヲ裁決スルニ方リ結局前同樣ノ意見ニ歸セシヿハ疑ヲ容レサル所ナリト雖モ「該事件ヲ熟知セルモノヨリ之レヲ觀レハ實ニ驚愕ノ至リニシテ恐ラクハ一般ノ情實及ヒ證言等ヲ充分ニ其判事ノ參考ニ備ヘサリシニ因テ然リシト見ヘタリ」尙ホ該約定ヲ破ラサリシヲ發見スルニ當テモ上告人ハ敢テ妄リニ凌辱ヲナサヽリシヿノ事情ヲ貴院ニ於テ明察セラルヘシ假令又上告人カ之レニ凌辱スルモ千八百六十九年第四月二十七日我明治二己巳年三月十六日附「ポルトル氏ノ書翰中最モ明瞭ナル語ヲ以テ同氏自ラ該約定ヲ破約セシヿヲ確言セリ

又上告人ハ例ノ如ク事實ニ拘ハラスシテ該證書ハ約定違變トナラサリシ以前ニ「ポルトル」ヨリ讓受タリト陳述ス蓋シ上告人ハ貴院ニ

於テ證言等ヨリ此訴訟ノ情實ヲ紛スヲ勞セスシテ只上告人等ノ訴狀中ニ陳述スル文詞ノミヲ採用スルヿト臆測スルモノヽ如シ然ラサレハ斯クノ如キ事實相違ノ中立テ以テ勝利ヲ得ンヿヲ希望スルハ千思萬考スルモ能ハサルナリ其眞實ノ事情ハ已ニ明證セシカ如ク此答辨書第七項ニ詳細セリ猶又此條ニ接續シテ拂方ヲ拒ミシ時ノ時日ニ就キ事實相違ノ申立ハ此答辨書第十四項ニ於テ明示シ且辨駁セリ

第十七　上告人ハ其末文ニ曰ヘラク此請求ノ確乎タル道理ヲ拒ムキハ其請求ノ正理ト公道トニ訴フト請フ此主意ニ基キ貴院ニ一言セン抑正理ノ最モ失敗ト謂「上海裁判所ニ關シテ」ハサルヲ得サル所以ノモノハ即チ我レニ毫厘ノ償ヲ爲ス無ク獨リ「ポルトル」氏カ手ニ八千兩ヲ留メ置クヿヲ許サレシノ一事ナリ而シテ尙ホ上告人ハ嚴

ニ其請求ノ正理タルヲ訴ヘ前ト等シク毫厘ノ返償モ無キ一萬五千五百五拾九兩ノ金額ヲ請求セントス

〔ポルトル〕氏ニ拘ハラスシテ上告人ノ爲メニ利スル所ノ公道豈亦有スヘケンヤ何トナレハ上告社中於テハ前項ニ述ヘタルカ如ク〔ポルトル〕氏ノ破産迄ハ同氏ヲ視テ其價位アルモノトシテ該證書ヲ受取リシニ由テ然ルナリ是レ〔ポルトル〕氏自身或ハ同氏ヲ經テ其辨償ヲ政府ニ求ムルノ方策盡キタルニ方リ上告人ノ更ニ其獨立ノ權利ヲ有スルモノト託言シ已ニ〔ポルトル〕氏ノ手ニアツテ該證券ノ廢物トナリシ處ノモノヲ以テ尙ホ其正理公道ニ觸レサルモノトナシテ之レヲ請求セルニアラスヤ

第十八　因テ被告政府ハ前顯ノ條理ヲ以テ貴院ノ裁判アランヿヲ仰ク其條理中緊要ナル箇條ノ大略左ノ如シ

〔第一〕前顯ノ證書ハ轉讓スヘキ證書ニアラサリシヿ故ニ元所有主ノ有シタル權利ノ外復タ其後ノ所持主ニ於テ更ニ其權利ヲ受クル能ハサル事

〔第二〕假令該證書ハ轉讓スヘキモノタリシト雖モ當時ノ情實ニ由テ上告人ニ於テハ〔ポルトル〕氏ノ有セシ權利ニリモ尙他ニ正シキ權利ヲ得ヘカラサリシ事

〔第三〕〔ポルトル〕氏ハ全ク其約定書面ニ於ル自己ノ義務ヲ盡スヲ怠リタルカ故ニ該證書ヲ以テ金額ヲ請求スルノ權利ヲ有セサリシ事

〔第四〕該事件ノ公道及ヒ正理ハ惡ク政府ノ方ニ屬スル事

原告〔ミルソン〕代人〔キルクード〕陳述ノ要領　明治十一年六月三日

答辨書中此證書ハ已ニ之ヲ交附セシ契約ノ廢棄スレハ則チ全ク無

効ニ屬スル云々ト論スレヒ余ハ今此辨論ノ不當ナル所以ノ理由二箇條ヲ辨ス可シ第一ケ條ハ假令彼ノ契約ハ廢棄セルト雖モ其契約ノ如ク貨幣ヲ以テ拂ハサル此金額ノ負債ニ至テハ尚依然ト存ス可シ故ニ政府ニ於テハ契約ノ廢棄セルヲ以テ固ヨリ其利益ヲ得ルヿ能ハス他ナシ該契約ハ政府ニ於テ其責任ヲ免カル可カラサルモノナレハナリ又第二ケ條ハ元來此金額ハ正ニ之ヲ辨償セサル可カラサルモノナリトイヘヒ政府ニ於テハ貨幣ニ換ヘテ證書ヲ交附シタル上ハ正ニ貨幣ヲ以テ辨償セシ時ノ如キ便益ヲ受クルヿ能ハサル事ハ是レ固ヨリ契約ノ踐行前ニ係ルモノナリ

又被告人ニ於テハ此證書ハ元來「ポルタル」氏ヨリ唯其負擔ノ抵當物トシテ之ヲ被告人ノ代理人ヘ交附セシモノナレハ彼等ニ於テハ唯其抵當物トシテ之ヲ保有スルニ過キサル云々ノ辨論ヲ爲シ然シテ

當時箱館ノ領事タル「トロープ」氏ヨリ該證書ノ持主タル「メップス、ウサスコーイン」及ヒ「ミルソン」ノ両氏ヱ送リタル一千八百七十三年四月四日附ノ書翰ヲ援引シテ其辨論ノ證據ニ供セリ

然レヒ余ノ見ル所ヲ以テスルニ該書翰ノ如キハ毫モ此辨論ヲ證明スルニ足ラス此件ニ就テハ下等裁判所ノ判決モ亦全ク誤マレルモノトス抑々此證書ニ就テハ「ポルタル」氏ノ分產以前ハ「ポルタル」氏ニ於テモ又ハ政府ニ於テモ各々其責任アリ他ナシ政府ハ之ヲ造リ又「ポルタル」氏ハ貴重ノ契約ノ爲メニ之レニ裡書セシヲ以テ當時ノ持主ニ對シテハ保證ノ責メアレハナリ其後同氏カ分產ノ時ニ當リ政府ニ於テハ證書面ノ金額ヲ拂ハサルニ依リ爰ニ於テ同氏ハ其保證人並ニ裡書人タルヲ以テ獨リ其全額ヲ辨償ス可キ責任ヲ被レリ故ニ當時ノ持主ハ同氏ノ財產ニ對シテ證書面ノ金高ヲ請求スル訴訟

ヲ起セリ

然ルニ當時英國人民ニ向テ收用セシ分産律ニ據レハ證書ノ持主タル者ハ「ポルタル」氏カ分産ノ時ニ當リ同氏カ該證書ニ就テ責任アルヿヲ證明セス之ヲ默許シテ其證書ヲ保有シ同氏ニ係ラスシテ其發行人ニ係リ其金額ヲ收復スルモ又ハ分産ノ委托人ニ該證書ヲ交附シテ彼レヨリ其發行人ニ係リ訴訟ヲ起サシムルモ固ヨリ勝手ナリトス然ル時ハ持主ニ於テハ唯他ノ債主ト共ニ同氏ノ財産ニ對スル金高即チ證書面ノ金額ヲ證明スレハ足レリトス然ルニ持主ハ此甲種ニ屬スル方法ニ從テ證書ヲ保有シ然シテ同氏カ分産ノ時ニ當テハ嘗テ該證書面ノ金額ヲ證明シテ他ノ債主ト共ニ其割賦ヲ受ケサリキ

故ニ下等裁判所ニ於テ該證書ハ抵當物トシテ之ヲ保有セシ云々ノ

譯語ヲ下セシハ全ク「トロープ」氏ノ書翰ニ掲ケタル分産律ノ負債ノ抵當ナル語ノ意味ヲ誤解スルノミナラス該證書面ノ所得ノ所有權ハ當時持主ニ屬シテ「ポルタル」氏ニ屬スルコアラス即チ「ポルタル」氏ヨリ裡書ヲ爲シテ之ヲ持主ニ交附セシ日ヨリシテ其所有權ノ轉移セシヿノ事實ニモ亦大ニ戾レリ

結局ニ至リ爰ニ下等裁判所ノ裁判中口述ノ證據ニ關スル判決ノ大ニ法律ニ悖戾スル所以ヲ論ス可シ此判決ニ付テハ被告人ノ代言人モ亦上告書ニ對シテ進呈セル答辨書中大ニ其判決ニ左袒シテ巧ミニ之ヲ辨セシト雖モ余ハ毫モ其辨論ノ正當ナル處ヲ見認ムルヲ得ス抑々余ノ見ル所ヲ以テスルニ下等裁判所ノ此口述ノ證據ニ關スル判決ハ全ク文明各國ニ於テ收用スル處ノ證據法ニ戾レルモノトス其證據法ニ據レハ固ヨリ徵スルヲ得ヘキ證據ハ勉メテ之ヲ徵ス

可シトスルモノナリ例ヘハ書類ヲ以テ契約或ハ其他ノ事ヲ爲シタル時ハ其書類ヲ以テ該契約或ハ其他ノ事ノ證據ニ供シ口述ノ證據ハ一モ之ヲ證明スヘキ證書類ヲ徵シ能ハサル時ニアラサレハ該契約ノ爭訟ヲ證明スル爲メニ之ヲ徵スルヲ得ストイヘトモ其證明ス可キ事實即チ本件ノ場合ニ於ケル如ク持主ニ證書面ノ金額ヲ拂フ可キ政府ノ契約ヲ確定スヘキ事ニ付テ一モ之ヲ證明ス可キ書類アラサルカ如キ時ニ至テハ裁判所ニ於テ其證明ス可キ證人ヲ全ク信スルニ足ラストスルニアラサレハ專ラ其證人ノ口述ノ證據ヲ以テ證明ス可キ事實ヲ確定セサル可カラス殊ニ被告人ヨリ其事實ヲ辨駁スルカ如キ時ハ尤モ斯ノ如クセサルヲ得ス又其口述ノ證據ヲ駁スル他ノ證據アル時ニハ裁判所ニ於テ其證據ヲ酌量シテ其證明ス可キ事實ヲ證明若クハ抗駁スルモノト爲シ然シテ其已ニ爲シタル所ノ事實ヲ看破セサル可カラス然ラスシテ唯之ヲ判決スルヲ得ス他ナシ若シ斯ノ如クセサレハ證據ノ兩立シテ一方ノミノ證ヲ看破スルヲ能ハサレハナリ

被告　日本政府大藏省代人ピートソン陳述ノ要領明治十一年六月三日

コルクウット氏ノ述ヘタル辨論ハ到底三个條ニ過キス故ニ余ハ其順序ニ從テ之レニ答フ可シ

第一ケ條ニ就テハ同氏ハ二ケ條ノ理由ヲ擧ケテ論セシト雖モ余ノ見ル所ヲ以テスルニ其理由ハ唯一个條ナリトス即チ契約ノ廢棄セシハ全ク政府ヨリ手附金ノ全額ヲ拂ハサリシヿノ怠慢ニ基クモノニシテ其之ヲ拂ハサル可カラサル事ハポルタル氏ノ契約ヲ踐行ス可キ前ニ斯ノ如ク爲サヽル可カラサルノ云々ニ過キス假令初メニ契約ヲ結ヒタル時ハ如何樣ナリト雖モ彼ノ證書ヲ交附セシ時ニ至

テハ決シテ斯ノ如キモノニアラス其之ヲ交附セシ時ニ當テハポル
タル氏ニ於テハ一モ契約ヲ踐行スヘキ處置ヲ爲サヽリシノミナラ
ス且同氏ノ之ヲ踐行セサリシハ全ク殘金ヲ拂ハサルカ爲メニ踐行
セサリシコノ證據在ルニアラス假令同氏ノ以前ニ有セシ權利ハ其
如何ヲ論セス同氏ハ此時ニ於テ全ク之ヲ放棄シテ更ラニ契約ヲ踐
行ス可キ時日ヲ請ヒ然シテ貨幣ノ辨償ニ換ヘテ此證書ヲ領掌セシ
コハ固ヨリ明瞭ナリ然ラハ則貨幣ノ辨償ハ此時ニ於テ敢テ契約中
ノ要スル所ニアラサルコハ此一事ヲ以テ證明スルニ足レリ是ヲ以
テ之ヲ視レハ余ノ過日論セシ如ク雙方ノ目的トスル所ハ全ク證書
面ノ金高ハ契約ヲ踐行シタル上ニ之ヲ辨償ス可ク然ラサレハ之ヲ
辨償セサルモノトセシコハ如是明瞭ナリ然ルニポルタル氏ニ於テ
ハ己レノ怠慢ヨリシテ契約ヲ破リタルコハ明カニ之ヲ承諾セリ其

之ヲ承諾セシコハ一千八百六十九年四月二十七日附ヲ以テ同氏ヨ
リ津輕藩ノ官吏ヘ送リタル書翰ニ依テ明瞭ナリ故ニ余ノ見ル所ヲ
以テスルニ上海裁判所ノ裁判宣告ニ拘ハラス同氏ヨリ反テ已ニ拂
ヒタル手附金ヲ返還スルハ正當ナリトス固ヨリ該裁判ノ如キハ余
カ答辨書ノ十六條ニ於テ論スルカ如ク毫モ法律及ヒ事實ニ適スル
モノニアラス其適セサル所以ノモノハ該裁判所ニ於テハ政府ノ便
益タルヘキモノハ殆ト之ヲ擯却セシ一事ヲ以テ見ルニ足ルヘシ蓋
シ貴院ノ之ヲ審判スルニ當テハ固ヨリ如是裁判ニ毫モ拘泥セサル
ヘシ斯ノ如クナレハ則チ政府ニ於テハ上告人ノ論スル如ク聊カ己
レノ惡事ニ乘シテ利益ヲ得又ハ恰モ貨幣ヲ辨償セシ時ノ如キ便益
ヲ得ントスルニアラス甲種ニ就テハ已ニ契約ノ破壞ハ毫モ政府ノ
怠慢ヨリシテ之ヲ破リタルニアラサルコヲ證明セリ又乙種ニ就テ

ハ若シ果シテ貨幣ヲ辨償シタル上ハ政府ニ於テ七千圓ノ金額ハボルタル氏ヨリ之ヲ收復スヘキ權アルヿハ固ヨリ疑ヲ容レス故ニ等シク其辨償モ亦之ヲ抗拒スルノ權アリトス

是レヨリ余ハコルクウツト氏カ陳述セシ辨論ノ第二ノ條ニ就テ論ス可シ同氏ハ此辨論ヲ以テ彼ノポルタル氏ノ分産ニ付テトローブ氏ニリウアルミルスコーイン及ヒミルソンノ兩氏ヘ送リタル一千八百七十三年四月十四日附ノ書翰ニ關スル下等裁判所ノ判決ヲ駁シテ喋々之ヲ論セシト雖モ余ハ今深ク之ヲ論スルヲ要セス他ナシ余カ此書翰ニ就テノ論ハコルクウツトノ辨論ト全ク異ナル一説アルニヨリ此箇條ニ就テハ徒ラニ辨論ヲ費サスシテ余カ答辨書ノ十三條ヲ以テ其説ヲ貴院ヘ呈セントスレハナリ然レ𪜈今爰ニ其大略ヲ論セン同氏ノ論辨ニ據レハ持主タル者ハ分産ノ委托人ヘ證書ヲ交

附セスシテ之ヲ保有シ然シテ其任ヲ政府ヘ歸ス可キ方法ヲ收用セシト言フ余ノ説ハ然ラス斯ノ如キ方法ハポルタル氏ト分産ノ委托人トノ間ニノミ之ヲ收用スルヲ得ヘシト雖モ彼等ノ之ヲ收用セルヲ以テ毫モ其責任ヲ政府或ハ其他ノ者ニ歸スルヲ得ス其之ヲ彼等自身ノ手ニ保有セシハ唯該金額ヲポルタル氏ノ財産中ヨリ收復スルヨリハ寧ロ之ヲ政府ヨリ彼等自身ノ姓名若クハポルタル氏ノ姓名ヲ以テ收復スルノ勝レルニ如カスト思考セシ意ヲ示スニ過キサルノミ然レ𪜈當時彼等カ如是意ヲ抱クモ亦實ニ當然ナリト言フヘシ其故他ナシポルタル氏ノ分産ニ付テハ其金額中僅々タル割賦ノ外ハ之ヲ收復スルヲ得ストイヘ𪜈之ニ反シテ其全額ハ政府ヨリ之ヲ收復スルヲ得ヘシト思考スレハナリ其如是思考セシ所以ハ他ナシ當時斯ノ如キ請求ハ決テ裁判所ヘ告訴スルヲ得サリシトイヘ𪜈

全權代理人ノ力ヲ以テ屢々斯ノ如キ請求ノ金高ヲ收復スルヲ得タレバナリ

是レヨリ余ハ第三个條ニ就テ論ス可シト雖モ下等裁判所ノ裁判中末條ノ判決ト及ヒ答辨書ノ九條トニ就テ貴院ヘ辨論ヲ呈スル外他ハ深ク之ヲ論スルヲ要セス然ルニ彼ノ上告人ハ上告書中ニ掲ケタル下等裁判所ノ文詞云々ノ論辨ハ已ニ其誤謬ナルヲ極論セシトイヘドコルクウット氏ハ本日又更ラニ其誤謬ナル論辨ヲ陳述セリ然レドモ余モ亦貴院ニ向ツテ一言ヲ費スヘシ抑々該裁判所ニテ適用セシ此文詞ノ直正ナル意味ニ就テ若シ果シテ疑ヲ容ルヽ所アラハ其疑團ハ同條中ノ前語ニ因テ之ヲ氷解スルヲ得ルモノナリ然ルニ上告人ハ下等裁判所ニ於テメップスイウステン氏トスコーイン氏トノ證據ハ口述ニ係リ他ニ書類ノ證據アルヲ以テ其効ナシトシ之ヲ

擯却セシトヲ論セシトイヘドモ該裁判所ニ於テハ決シテ之ヲ擯却セシニアラス唯彼ノ責任ニ付承諾ノ如何ヲ判決スル時此等證人ハ此承諾ヲ彼等ヘ爲セシト言フトイヘドモ其承諾ハ唯口述ニ係ルヲ以テ此等證人ノ證據ハ深ク之ヲ信スルニ足ラサル旨ヲ示セリ此處分ノ如キハ余ノ答辨書中ニモ辨明セル如ク實ニ當然收用ス可キ正當ノ處分ト言フ可シ故ニ該裁判所ノ裁判宣告ニ於テモ先ツ證書ニ鈴シタルニウアイ氏ノ調印云々ヲ辨明シ然シテ總テ他ノ承諾ハ書類ニアラスシテ口述ナル云々ヲ宣告セリ是ヲ以テ之ヲ觀レハ上告人カ該裁判所ノ國語ニ付テノ論ハ固ヨリ不當ナルヿ明瞭ナリ

余ハ過日此承諾ニ付原告人ヨリ徵セシ證據ニ應答ス可キ證據ハ一モ之ヲ徵スルニ及ハサル所以ノ理由ヲ辨セリトイヘドモ尚爰ニ一言ヲ費サン元來此證據ノ如キハ固ヨリ之レニ應答スルヲ要セス其故

ハ本件ニ於テ證明セシ事實トハ全ク異ナレハナリ爰ニ其一例ヲ擧クレハイウスデン氏ハ北村君下等裁判所ニ於テノ政府ノ代理人タリシ者ニ答ヘテ同氏ハ一千八百六十八年ノ歳末即チ函館騒動ノ直ク後ニ於テ此證書ノ寫ヲ領掌セシ旨ノ書面ヲ送リタルヲ以テ明カナリ斯ノ如キ者ノ有ル在レハ則チ下等裁判所ヲシテ此等證人ノ證據ヲ深ク信セシメサリシハ實ニ當然ナリト言フ可シ

コルクウツト氏ノ本日論スル所ニ據レハ彼證據ハ他ノ判決ニ全ク異ナルヲ以テ貴院ニ於テハ到底其證據ヲ擧テ事實ヲ證明若クハ之ヲ駁スルノ證據ニ供セサルヘカラサルモノニシテ決シテ斯ノ如ク爲スヿヲ肯セサルヲ得スト言フ果シテ然ラサルヲ得サルハ余ニ於テモ亦毫モ疑ヲ容レサル所ナリ然レトモ此證據ノ如キハ反テ上告人ニ對シ其利益ヲ與フヘシ其故他ナシ元來確定即チ例ヘハ彼ノ責任

ニ付テノ承諾ヲ確定スルカ如ク事實ノ成立ヲ證明スルハ固ヨリ上告人ノ本務タレハナリ故ニ若シ同氏ノ下等裁判所ニ於テ怠タレルカ如ク亦此事實ヲ證明スルヿヲ怠ル上ハ裁判所ニ於テハ之ヲ廢棄スルノ權アルノミナラス固ヨリ之ヲ廢棄スルヲ得ルモノナリ故ニ此一事ニ就テハ貴院ニ於テモ亦同一ノ判決アルヘキヿハ余ノ信シテ毫モ疑ハサル所ナリ

上告ノ主點ハ左ノ條件ナリトス

第一　原告カ所有スル函館舊運上所ノ認メタル振手形ハ轉讓スヘキ證書ニシテ當然ニ貨物ノ爲メニエーピー、ポルトルヨリ讓リ受ケタルモノナルヲ東京上等裁判所カ其要點タル奥書ノ有ルヿヲ見認メスシテ證書讓渡ノ習慣ニ違ヘルモノト判決セシハ不法ナリトノ事

第二　原告證據人カ函館舊運上所官吏杉浦長谷部ノ兩氏ニ面會セシトノ申立ハ被告ノ辨駁ヲ受ケサル證據ナルヲ東京上等裁判所カ口頭ノ申立ナリトシテ採用セサリシハ裁判ノ道理ト習慣トニ違ヘルモノナリトノ事

辨明

第一條

箱館舊運上所ヨリエーピー、ポルトルヘ渡シ置キタル約定證書ハ金額拂方ヲ約スル約定書ニシテ函館舊運上所ヨリエーピー、ポルトルニ對セシ證書ナルニ因リエーピー、ポルトルヨリ右證書ヲ他人ニ讓渡ス時ハ其讓渡ヲ證スル爲メニ其旨ヲ記載シタル讓渡證書ナカル可ラス若シ其讓渡證書ナケレハ讓渡ヲ受ケシト唱フル者ハ其證書ヲ所有スルノ權利ヲ有セサル習慣法ナリトス本訴原告人ノ所持ス

ル證書ニハエーピー、ポルトルノ記名アルノミニシテエーピー、ポルトルヨリ原告人ニ對セシ讓渡ノ記入モナク又添證書モナキニ付キ原告人ニ於テハ被告ニ對シ義務ヲ得ンヿヲ請求スルノ權利ヲ有セサル者ナリトス且ツ又該證書ハ其所持主ナルエーピー、ポルトルノ手ニアリテ既ニ廢物トナリタル旨被告人カ東京上等裁判所ニ於テ辨駁シタル上ハ原告人ハ右ノ證書ヲ讓渡ストノ讓證文ヲエーピー、ポルトルヨリ受取リ而シテエーピー、ポルトルニ於テ右證書ハ未タ廢物トナラスト主張セハエーピー、ポルトルヲ東京上等裁判所ニ差出シ右證書ハ未タ廢物トナラサルトノ事理ノ證明ヲ爲サシムヘキ筋ナルニ原告人ニ於テハエーピー、ポルトルヲ差出サス其事理ノ證明ヲ爲サシメサリシニ付キ東京上等裁判所ハエーピー、ポルトル氏自ラ出テサレハ事實分明ナラサルモノトシ原告人ノ所持スル證書

ハエーピー、ボルトル氏ニリワルメール、シユエシ、ミルソム社中ヘ讓渡ノ記入モナク又添證書モナキニ付證書讓渡ノ習慣法ニ違ヘルモノトシ原告ノ訴願相立タスト判決セシハ不法ノ裁判ニ非ラストス

第二條

前條ニ辨明セシ如ク原告人ノ所持スル證書ハ其所有ノ權ヲ有シタルノ證據ナキヲ以テ被告ノ義務ヲ請求スヘキ權利ナキノミナラスエーピー、ボルトル氏ヲ差出シテ事實ヲ證明セサルニ依リ其事ニ付キ口述ヲ爲シタル函館舊運上所ノ官吏杉浦長谷部ノ兩名ヲ如何程取調ヘタリトテ本案ヲ裁決スルニ於テハ無益ノ事ナリトス左スレハ東京上等裁判所ニ於テハエーピー、ボルトル氏ガ東京上等裁判所ニ出テサレハ事實分明ナラサルニ付長谷部杉浦等ヲ取調フルモ無益ノ取調ナル故ニエーピー、ボルトルノ出テサル內ハ長谷部杉浦等ノ事

ハ取調フヘキニ非スト申渡スヘキニナルヲ右ノ如キ申渡ヲ爲サスシテ長谷部杉浦等ニ關スル義ハ都テ口頭ノ申立ノミナリト申渡シタルハ不都合ナル申渡シナリト雖モ右ノ申渡シハ本案ヲ裁決スルニ關セサル故之ヲ以テ本案ノ裁判ヲ破毀スヘキ理由ト爲スヲ得ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス

第百八拾三號

○地所並地券證取戻上告ノ判文　明治十一年四月廿五日上告
明治十一年十一月五日申渡

原告　京都府丹波國桑田郡保
津村平民村上ツル幼年

ニ付後見人村上彰之助

右代人　大分縣平民　九岐　昕

被告　京都府丹波國桑田郡保津村平民　岸谷伊助

大坂上等裁判所ノ判文

地所并地券證取戻之控訴遂審理處

原告申立ル要旨

先代村上半助所有ノ田畑屋敷地合セテ拾九ケ所ノ義ハ源右衛門代ニ至リ豫テ被告岸谷伊助ヨリ金子借用ノ方ニ預ケ置キタルモノナリ天保十二年七月付被告第二號證書ニ

本文第二號證書ノ寫左ノ如シ

屋敷田地證文之事

一風呂本屋敷并同所田地室木田地八ノ坪田地貳箇所并畑壹箇所

觀音寺田地三箇所右ノ子田地壹箇所

右ノ屋敷田地代金百兩ト銀百目讓リ渡シ申事實正ニ候得共屋敷取戻ニ付少シ義理合之筋有之候故來ル寅年二月迄帳替之處限月成候ハヽ本證文ヲ認村役印取相渡可申候尤當年ノ所此方ヨリ田地致世話德米ハ其元ヱ相渡可申候右代銀ノ內五貫五百廿八匁ハ慥ニ請取殘壹貫目ハ帳替之砌證文ト引替ニ相渡可被下候爲後日之仍而如件

天保十二丑七月　本人　村上源右衛門印

該地面ノ内九个所譲リ渡シノ約ヲナシタルハ天保十三年四月付被
告第二號證書ニテ

本文第二號證書ノ寫左ノ如シ

賣渡申田地之事

觀音寺

一下田三畝廿九歩　分米　四斗七升五合　内八斗引

同所

一下田壹畝拾四歩　銀四匁　東ハ西ハ同　壹斗七升五合　内三升五合引　南ハ北ハ同

同所

一下田壹畝拾三歩　同　東ハ西ハ同　無之　南ハ北ハ同

伊助殿　證人　村上延造印

右ノ子

一下田壹反拾六歩　同　東ハ西ハ同　壹石貳斗六升六合　内壹升四合溝引　南ハ北ハ同

八ノ坪ふしやでん

一下田貳畝廿四歩　同　東ハ西ハ同　貳斗貳升四合　内八升引　南ハ北ハ同　貳斗九升六合　内壹斗八升七合引

同

一下田三畝廿歩　九斗五升三合　内八升八合引

岸ノ下

一中田七畝拾歩　同　東ハ西ハ同　南ハ北ハ同

右ノ田地雖爲相傳此度要用有之ニ付代銀六貫五百目ニ賣渡申
處實正也然ル上ハ村帳面被成御替如何樣トモ支配可被成候尤
田地ニ付外ヨリ違亂妨申者毛頭無之候爲後日賣渡證文仍而如

件

賣主　村上源左衛門印

天保十三年壬寅四月

證人　桂甚五兵衛印

伊助殿

前九箇所地面ノ内ヲ七箇所トナシ其約定ヲ更改セリ然ルニ天保十四年十二月付被告第四號證書ニ

本文第四號證書ノ寫左ノ如シ

一札ノ之事

去丑年證文之通入置早速帳替致可申處屋敷儀ニ付故障有之帳替ハ未タ致シ遣シ不申候得共何分金子致借用事紛無之候間右田地

屋敷其方勝手ニ支配可被致候爲後日之仍而如件

村上源右衛門事　勝木戸左衛門印

天保十四年卯十二月　村上延藏印

伊助殿

於テ右契約履行ナラサルヿヲ明記シ地面讓渡ノ約ヲ改メ右代價金額ヲ借用證書トシ總テ地面支配ヲ委ヲ置キタリ

第四號證書文中ニ去ル丑年證文之通ト記載アルハ右契約ハ何等ノ點ヨリ出シ所以ヲ述ヘタル迄ニテ右第一號證書ノ契約ヲ受ケ繼キ添ヘ證書トナシタルモノニアラス然ハ以前ノ契約ハ總テ消滅シ更ニ第四號證書ノミ存在スルモノナリ

若シ被告申立ノ如ク賣買ノモノトセハ第四號證書ニ於テ初メテ該

地面ヲ被告ヘ委ネタルニ其地面ノ箇數被告第一號第二號證書ニ記載アルヨリモ數箇所ノ多キヲ加ヘ其代價ハ受取不足アル等賣買事情ト其行爲ト反對ス又明治八年第百六號布告ニ照セハ地券名義ヲ切リ換ヘサレハ地所ノ所有者ハ原告ナル故右地所ハ取リ返シ受取リ置キタル金額ハ返還シテ當然ナリ

且ツ該訴ハ已ニ出訴期限ヲ經過セリ

被告申立ル要旨

原告請求スル地所拾九箇所ノ內拾壹箇所ハ天保十二年七月村上半助相續人村上源右衛門ナル者ト被告第一號證書〔前ニ掲ク〕ノ通リ契約致シ手元都合ニヨリ內銀五貫五百廿八匁相渡シ地所引受ケ作付致シタレハ該村役場帳替不相成然ルニ天保十三年四月ニ至リ十一个所ノ內四个所故障有之帳替致シカタキニ付先ツ七个所ノミ帳替致シ置クヘキ旨ニテ第二號〔前ニ掲ク〕第三號證書請取タリ

本文第三號證書ノ寫左ノ如シ

御返進申田地之事

字風呂本

一屋敷四畝歩　分米四斗

同所

一屋敷壹畝拾六歩　同壹斗五升三合

同所

一上田貳畝廿九歩　同四斗壹升五合

東ハ道　西ハ善衛門屋敷

銀四匁　南ハ道　北ハ同

室ノ木

一中田八畝歩　分米壹石四斗

銀四匁　東ハ　西ハ太右衛門分
南ハ　北ハ溝

右之田地以前其元御所之處先年御勝手ニ付代銀壹貫八百七十八匁八分ニ私共ニ申請候處此度又御所望ニ付尤中路段平樣其元御賴ニ付御苦勞ニ預リ右田地共元樣ニ御返進申候然ル上者御勝手ニ村方御帳替被成永々支配被成候爲後日之依而如件

返濟主　桂與惣右衛門印

天保十二年丑七月　庄屋　桂小郡治印

村上源左衛門殿

讓リ渡申田地之事

一中田七畝拾歩　分米九斗五升三合

内貳升八合引

一七升　嘉左衛門ニ溝敷

銀四匁　東ハ道　西ハ善吉
南ハ仙助　北ハ又助

右之田地雖爲稻荷講田此度要用ニ付代銀一貫五百目ニ賣渡申處實正明白也然ル上者村方帳面被成御替御支配被成候尤此田地ニ付外ヨリ違亂妨申者毛頭無御座候爲後日讓リ證文仍而如件

讓リ稻荷講中　桂與惣右衛門印

天保十年亥二月　右同斷　桂與總兵衛印

庄屋　桂傳之丞印

右同斷　桂　辨　内印

村上源右衛門殿

右七个所ノ分即時帖替可致處役場證書取リ置ノ上ハ何時ニテモ帖替相成ルヿト存シ其儘差置キタリ而シテ第二號證書ノ内右ノ田地云々六貫五百目ニテ賣渡シトアルハ全ク誤リニテ壹貫目皆拂ニナラサル儀ハ原告於テモ承知セリ

爾後殘リ四个所ノ地所帖替催促及ヒシ所其手數ヲ盡サヽルニヨリ第四號證書（前ニ掲ク）ヲ受ケ取リシモノニテ右證書ニ據テ之ヲ見ルモ第二號證書ノ六貫目ト記載セシハ誤リナルヿ判然ナリ其後村上家廢絶ノ際ニ當リ所有者ナキ地面トナリ賣買履行モナリカヌルニヨリ帖替承諾アル七个所ハ直ニ帖替致シ度其餘ハ如何取計ウヘキヤ役

場ヘ伺ヒ出タル處帖簿ハ都テ其儘ニシテ村上半助代ノ名義ヲ以テ上税可致旨申渡サレ止ムヲ得ス其意ニ隨ヒ數年ヲ經過セリ

明治五年地券發行ノ際戸長指圖ニヨリ半助代岸谷伊助名義ニテ地券願ヒ差出シ置キタル處地券面村上半助名前ニテ悉皆下ケ渡シ相成リ剩ヘ拾三通ノ内七通ハ村上彰之助ヘ下附相成ルニ付前條戸長ニ於テモ其原由承知致シナカラ如此意外ノ取計振リ有之ハ子細モ有之ヿト心付キ原告ヘ掛合ノ末明治九年十月六日地券書替勸解ヲ願ヒ又京都府郡村掛リヘ願出ル處突然村上「ツル」ヲ村上半助相續人トナシ該地取戻シヲ訴ヘ出タリ

被告於テ確證判然タルニ其契約ヲ破リ該地取戻シ度トハ何等ノ理由アリヤ將又原告於テハ拾九箇所ノ地ヲ請求スレヒ買得證書ニ記載スル拾壹箇所ノ地ト外ニ村方ヨリ委托セラレタル林地壹箇所合

セテ拾貳箇所ノ外無之然ルニ地券ト符合セサルヨリ實地ニ就テ取リ調ルニ拾九箇所アレ𪜈該證書記載ノ分ハ何レモ享保度等ノ切リ添新田ニシテ通常是ヲ稱ルハ本田ノ字ヲ以テ一地内ニ包含相成ルヨリ當時現物ヲ見積リ代價ヲ定メ買得ナシタルモノニテ右包含地ニ係ル貢租モ被告之ヲ收納セリ

判決

第一條

原告於テ被告第一號證書ニ九箇所ノ地面讓リ渡ノ約定ナシタルヲ第二號證書ニ改メ七箇所トナシ尚第四號借金證書ニ更改ナシタル旨申立ルト雖モ右第四號證書ニ去ル丑年證文ノ通リ入置早速帖替致シ可申ノ處屋敷ノ儀ニ付故障有之帖替ハ未タ致シ遣シ不申候得共何分金子致借用事紛レ無之候間右田地屋敷其方御勝手ニ支配可被致トアレハ即チ天保十二丑年七月付被告第一號證書ノ田畑等故障アルヨリ未タ帖替致シ遣ハサヽレ𪜈右地面ハ勝手ニ支配可致トノ趣意ニテ賣買約定ヲ改メ更ニ借用金證書トナシタルニアラス然ハ右第二號證書ハ未タ消滅セサルヿ勿論ニテ其第二號證書ハ第一號地面ノ内渡シテナシタル證書ナルヿ判然ナリ

第二條

原告於テ被告第一號證書ニ風呂本屋敷トアルハ貳箇所ノ内壹箇所賣買ノ約ヲナシタル旨申立ルト雖被告第三號證書ニ貳箇所記載アルノミナラス風呂ノ本ハ元貳箇所ノ地ニテ該證書ニ壹箇所タル明記無キ上ハ貳箇所𪜈賣買セシモノト看認メサルヲ得ス且被告第一號證書ニ觀音寺田地三箇所トアリテ内壹箇所ハ民圖帖ニ記載ナク第二號證書ニハ下田壹畝拾三分トアリ而シテ今般地券下附アリシ

観音寺田五分ニ相當スル旨原被告申分符合ス然レトモ第一號賣買ノ地面ハ被告中立ノ通リ拾一ケ所ナリ

第三條

被告第一號證書ニ〔八ノ坪田地二箇所畑壹箇所〕トアリ第二號證書ニハ〔八ノ坪ブシヤデン下畑貳畝廿四分同三畝廿分岸ノ下田七畝拾分〕トアレハ第一號證書ニ田地貳箇所畑壹箇所トアルヲ畠貳箇所田地壹箇所ニ改約セシモノナリ而シテ八ノ坪岸ノ下中田七畝拾歩八ノ坪ブシヤデン下畑三畝廿分ハ民圖帖ニ記載アレトモ下畑貳畝廿歩ノ地無之原告於テハ八ノ坪牛新田下畑三畝歩ニ相當スルヤノ旨申立他ニ類似ノ地所モ無之ニヨリ右下畑三畝歩ヲ以テ相當ノ地ト看認ルモノナリ

第四條

被告於テ買得セシ拾壹箇所幷ニ依托ヲ受ケタル子守上畑貳畝ノ外八箇所ノ地面ハ享保度等ノ切リ添ヘ新田ニテ八ノ坪岸ノ下中田七畝拾歩八ノ坪ブシヤデン下畑三畝廿歩同所下畑二畝廿四歩ニ包含スル旨申立ルト雖モ文政度民圖帖ニハ田畑位反別石盛等各別ニ記載有之又八箇所ノ内西ノ馬場屋敷七歩ハ風呂本屋敷ニ包含スル旨申立ルト雖モ右ハ元敷地ニテ敷帖ニ記載アリシモノナレハ屋敷地ニアラス然ハ八箇所ノ地所タル包含地ニアラサルヿ判然ニテ被告提供スル各證書ニ於テモ其賣買ノ内タルヲ看認ルニ由シナシ

前條々ノ如ク被告ニテ買得セル拾壹个所ノ地面ハ殘金相渡シ名前之ヲ切リ替ユヘク其他九个所〔内二个所ハ流亡地〕原告ヘ引渡スヘキモノトス

但訴訟入費ノ義ハ原告ヨリ相償フヘキヿ

明治十一年二月九日

大審院ニ於テ

原告代人　九岐晰上告ノ要領

被告カ大坂上等裁判所ヘ提供シタル第一號證ハ九个所ノ地所賣買ノ契約ナリシ處該地ニ就キ故障ヲ生シ實際履行スル能ハサルヨリ第二號證ノ如ク更ニ七箇所ノ地所賣買ノ契約ニ更改シタレハ第一號證ノ契約ハ自ラ消滅セシモノナリ何トナレハ第二號證ノ如キハ之ニ第一號證ニ掲ル地所ノ内渡チ爲ス云々ヲ掲載セサルノミナラス金額ニ於テ亦差異アレハナリ況ンヤ第四號證ニ至テハ金子借用云々ノ語アリテ金圓貸借ノ性質ニ變シタルニ於テヲヤ然ルヲ大坂上等裁判所ニ於テ第二號證書ハ第一號證書地面ノ内渡チ爲シタルモノト認定セラレ且又論所風呂本屋敷ハ實地二箇所ナレトモ證書中ニ二箇所ノ明文ナキ上ハ三箇所ノ内一箇所ノ賣買ナリト看做サハ

ルヘカラサルヲ同裁判所ニ於テハ一箇所ノ明文ナキ上ハ二箇所トモ賣買セシモノト認定セラレタルハ不法ノ裁判ト思料ス因テ原裁判ノ破毀ヲ請フ

辨明

原告代人カ被告第一號證即チ天保十二丑年七月附ノ契約ハ被告第二號證即チ天保十三寅年四月附ノ契約書ノ爲メ自ラ消滅シ復タ被告第四號證即チ天保十四卯年十二月附ノ契約ヲ結締シタルニ就キ全ク元來ノ契約ノ性質ヲ變更ナシタルモノト陳申スルト雖モ被告第四號證ニ去丑年證文之通入置早速帳替致可申處云々右田地家敷其方勝手ニ支配可被致候ト明記シアレハ乃チ被告第四號證ハ天保十二丑年七月ニ原告ヨリ被告ニ差入レアル被告第一號證ニ因由シテ成立タルモノニテ彼此相連屬スヘキ證書ナリ然レハ被告第一號

證ト被告第四號證トノ中間ニ成立タル被告第二號證ノ爲メ被告第一號證ハ消滅シ又タ此被告第二號證ハ被告第四號證ニ偶借用ノ語アリトテ元來ノ契約ノ質ヲ變シタルモノト爲スヘカラサルナリ且又字風呂本家敷地ハ實地二箇所ナルニ證書上唯其字ノミヲ記シアリテ判然二箇所ト明示ナケレハ二箇所ノ内一箇所ノミヲ讓タルモノト原告ハ申述スレトモ當時原告ヨリ被告ニ渡シオキタル桂典惣右衛門ヨリノ返地證書即チ被告第三號證ノ現ニ被告手中ニ存在シアルニ由レハ必竟被告第三號證ハ被告第一號證ニ副タル證ニシテ右被告第三號證ノ外ニ字風呂本家敷ハ一箇所丈ヲ被告ニ讓渡シタリトノ明證アルヿナシ左スレハ原告カ被告ニ讓渡シタル箇所ハ二箇所字風呂本家敷地ノ外ナリト認定スルハ當然ナリトス於是テ大坂上等裁判所ノ裁判ハ不法ノ裁判ニアラス

判決

前條ノ如クナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀スルノ理由ナキモノトス

第百八拾四號

○渡金取戻上告ノ判文明治十一年七月三十一日上告明治十一年十一月五日申渡

原告　愛知縣第拾壹區三河國額田郡久保田村五十二番地平民　鈴木吉藏

被告　同縣同國同郡岡崎傳馬町百五十五番地平民　杉原喜治郎

東京上等裁判所ノ審判

原告　鈴木吉藏控訴ノ要領　明治十一年四月廿二日

明治十年二月中別紙第九號ノ如ク村内官林拂下人ヨリ該官林村方ヘ買入右代金他借ノ後返濟方ニ差支村總代杉浦政吉ヨリ金策方依頼被及タレトモ別紙第七八號ノ如ク其前既ニ村方ノ爲メ大金周旋セシ後ニ付難行届旨相斷リタルニ後チ山本八十吉鈴木傳藏ノ地券證持參ニテ再ヒ依頼被及不得止被告杉浦喜次郎ヘ申入左ノ第十號證ヲ以テ金員借用セリ

第十號證

借用金證券

第二千百三十八號

一金四拾九圓

此抵當　內金拾圓　九月廿九日返濟　用掛杉浦政吉印

第四百五十五號

三河國額田郡久保田村十五字藏マヘ三十五番

一田六畝九歩

代金拾五圓

第二十四號

同國同郡同村二字石丸廿二番

一畑壹反壹畝拾九歩

代金拾九圓

第八百七十四號

同國同郡同村三十字峰末廿五番

一田八畝貳拾五歩

右　持主　山本八十吉

同　人　持主　鈴木傳藏

代金十五圓

右ハ私シ共都合ニ付書面ノ金員正ニ借用申候處確實也返濟ノ儀ハ來ル十二月二十日元利共無相違御返濟可仕候萬一期及遲滯候節ハ加判之者立入右抵當ノ地所賣拂聊無相違辨償可仕候爲後日證券依テ如件

久保田村
借主　山本八十吉印

明治十年五月三十一日

同　鈴木傳藏印

受人　杉浦治兵衛印

杉浦喜十郎殿

同　山口增太郎印

前書之通相違無之候也

戸長代理
副戸長　三原逸彌印

右ノ金四十九圓ノ內金四十四圓ヲ即日村總代杉浦敬吉方ヘ相渡シ殘金五圓ハ嘗テ約定セシ儀ニ付自分ニ於テ使用シタリ然ルニ其前村方ヘ對シ立替タル金員追々自分ヘ返却相成加フルニ嚮ニ土呂村山本嘉吉ヘ申入置シ金員モ貸渡スヘキ旨申來ルニ付之ヲ借入尙村方ヨリノ返却金等ヲ合セ金四十五圓九十九錢五厘ヲ明治十年六月

十日被告方ヘ持參シ第十號證借用金ノ內ヘ返却セリ是日ヤ被告喜十郎ハ飲酒中ニテ手代モ不在且同人ハ中風症ノ病中故自分ニ於テ受取證認メ呉レヘキトノコトニ付則チ左ノ第一號ヨリ第五號迄ノ受取證ヲ記シ同人ヨリ仕切判ノ捺印ヲ受ケタリ

第一號

記

四十九圓口

一金九圓九拾九錢九厘

右正ニ受取申候也

十年六月

久保田村　岡崎　杉浦喜十郎印

鈴木吉藏殿

以下第五號迄ノ受取書ハ各金高ニ相違アレトモ年月文面トモ第一號ト同斷ナレハ茲ニ略ス

但シ第五號證ニハ「金壹圓貳拾貳錢五厘外ニ手ヲ一ト云一廉ヲ記セリ」

如此一時ニ渡シタル金員ヲ五通ノ受取書ニナシタルハ被告ニ於テ四錢ノ印紙ヲ吝ミシヨリ斯ク分書シタリ尤該金ハ返濟期限前ニ相渡シタレトモ被告ノ利子ハ高利ナルヲ以テ期限中入金セシモノナリ而シテ明治十年八月二十八日ニ至リ殘金三圓五厘幷利子共持參シ第十號證幷抵當ノ地券請戻シ方被告ヘ掛合ニ及ヒシ處豈圖ン被告ニ於テ內金領受セシコト無之旨申聞ケルニ付則チ第一號ヨリ第五號迄ノ受取書ヲ示シ尚右受取書ノ印影ハ曾テ被告ヨリ取置ク別紙

第六號受取書ノ印影ト相違ナキ旨申談シタレトモ不法ノコノミ申張何分承諾無之ニ付別紙第十二號ノ如ク岡崎警察所ヘ出願シ尙第十三號ノ如ク名古屋裁判所岡崎支廳ヘ出訴セシ處審理中第一號ヨリ第五號迄ノ受取書印影ト被告喜治郎方ノ店判ト相違ノ有無印判師三名ニ鑑定セシメシニ同人共ニヨリ相違ナキノ鑑定書別紙第十一號ノ如ク同裁判所ヘ呈シタリ然ルニ同裁判所ニ於テハ右五通ノ受取書ヲ眞正ニアラサルモノトナシ原告ニ於テ該訴ノ金員請求スル權利無之旨判決セラレタレトモ前顯ノ如ク四拾九圓餘ノ金員ヲ被告ヘ渡シタルハ相違アラサルニ付殘金ヲ被告ヘ渡シ山本八十吉借用券即チ第十號證ヲ取戻ス歟又ハ第一號ヨリ第五號迄ノ渡シ金ヲ取戻ス歟兩樣更ニ覆審ノ裁判アランコトヲ乞フ尤證書中喜十郎トアルハ喜治郎ノ誤ナリ又被告ハ明治十年六月以來發狂者ナリト申立

レトモ右ハ多病迄ニテ發狂者ニハアラサルナリ

被告代人　杉浦恒次郎答辨ノ要領

明治十年五月三十日原告鈴木吉藏儀久保田村山本八十吉鈴木傳藏ノ依賴ヲ受ケシ旨ニテ金員借用ノ儀談判有之ニ付明治十年十二月二十日ヲ期シ金四拾九圓貸渡シタルニ明治十年九月二十九日久保田村用掛杉浦政吉ナルモノ村方寄金アリシ旨ニテ金拾圓ノ內入ヲ申來リシニ付則チ證書ニ入金ヲ記入シ尙受取證差出シ置タリ然ルニ原告ハ第一號ヨリ第五號迄ノ書面ヲ以テ被告カ該貸金ノ入金トシ差出シタル受取書ト申立レトモ右ハ被告ヨリ差出シタル覺無之又其印影モ判然セスモシ其印影被告店判ニ相違アラサルトキハ何ノ日カ白紙ニ押捺シ置タルモノナラン且ツ其受取書ニ被告ノ名ヲ喜十郎ト記セシモ被告ハ喜治郎ト稱シ喜十郎トハ唱ヘサルナリモ

シ原告ニ於テ該貸金ヲ村費ノ爲メニ辨償スルノ厚意トスルモ金四拾五圓ヲ入レ僅カ三圓餘ヲ殘シ僅少理アランヤ加フルニ該貸金ハ五月三十日ナリシカ後五日ヲ經テ六月五日ニ至リ再ヒ金圓借用ノ儀賴談ニ付則チ金七拾圓ヲ原告ニ貸渡シタリ殊ニ一號ヨリ五號迄ノ受取書ノ入金ハ明治十年六月十日ナリト原告申立レトモ明治十年六月八日被告ハ岡崎裁判所支廳ノ喚問ヲ受ケ病中出頭セシモ忽チ差重リ同日ヨリ發狂ノ體トナリ明治十年六月十一日別紙狂病屆ノ如ク發狂ノ屆ヲナシ後二週間ハ快復セス親戚等三四名始終看護シ居リタレハ原告申立ル如ク明治十年六月十日ニ於テ右受取書ノ金員ヲ領受スルノ謂レアラス抑該貸金ハ原告ニ貸渡シタルモノニアラスシテ原告ハ借主山本八十吉外一人ノ使ナレハ唯其金ヲ渡セシ迄ナリ故ニ其返濟ヲ原告ヨリ受クルノ理モ亦アラサルナリ而シテ該貸金ハ既ニ借主ヨリ返却ヲ受ケ證書及ヒ抵當ノ地券ヲモ本人ヘ差戻シタレハ原告ノ請求ニ應スヘキ理ハアラサルナリ

判文

上略原告第壹號乃至第五號證ノ印章ハ原告第拾壹號證印判師ノ鑑定書ヲ以被告ノ印章トスルモ抑原告カ被告ヨリ借用シタリト申立ル金四拾九圓ハ被告ニ於テ原告ヘ貸付タルモノニアラスト申立其借用證タル原告第拾號證ヲ閲スルニ貸主山本八十吉鈴木傳藏受人杉浦次兵衛山口增太郎トアリ抵當ノ地券モ山本八十吉鈴木傳藏ノ地券ニシテ被告ノ貸金四拾九圓ニ付毫モ原告カ義務者タリシノ證ナシ而シテ原告第十號證ノ金四拾圓ハ負債主タル山本八十吉外壹人ヨリ既ニ返濟相成リ抵當ノ地券モ差戻シタリト被告明言シ原告カ被告ヨリ金四拾九圓ヲ借用シタリトノ事ハ原告ノ申立迄ニ止リ

其借用主タルノ證ナケレハ原告第壹號乃至第五號證ノ金ヲ被告ヘ返濟スヘキノ理ナシ因テ原告第一號乃至第五號證ハ原告第十號證ノ返濟金受領證トハ見認カタシ如斯ノ理由ナルニ付原告ノ請求難及採用到底初審裁判ノ通可相心得事明治十一年七月三日

大審院ニ於テ

原告　鈴木吉藏上告ノ要領

東京上等裁判所ノ判文ニ依レハ原告ハ第十號證ニ於テ毫モ義務者タル證左ナキトノ意ヲ以テ第一號乃至第五號之受取證ハ十號證ノ返濟金受領證トハ看認メ難シト判決セラレタレトモ抑該金ハ一身一己ノ借用ニアラスシテ村方一同ノ借用金タルヿ及ヒ該金證書トモ皆原告カ授受セシヿハ原被及ヒ引合人杉浦政吉等カ初審ニ於テノ口供ニ明ニシテ原告モ亦該金ノ義務者ナリ殊ニ杉浦政吉モ亦義

務者タルノ證左ナキモ既ニ該借用金ニ對シ内金拾圓ヲ返却セシヿハ十號證ニ明記アル如シ是原告カ該借用金ヲ返却セシト同手段ナリ而シテ其返却金ノ受取證即チ第一號乃至第五號證ノ印影ハ被告ノ店判ニ相違ナキハ初審ノ時印判師ヨリ證明セシ第十一號證ニテ判然タレハ則チ被告ニ於テ右金ヲ領收セシ確證ナリ且本訴ハ專ラ第十號證ノ義務者ナルヤ否ノミヲ論セシモノニアラスシテ渡シ金ノ有無ヲモ論セシモノナリ然ルヲ上等裁判所ハ入金ノ有無ヲ問ハス確證タル受取書ヲ信用セス原告ノ請求難及採用ト判決セシハ不法ノ裁判ト思惟スルニ付該裁判ヲ破毀セラレンヿヲ乞フ

辨明

抑本案原告カ主張スル主點ハ當初原告ハ山本八十吉等ノ依頼ニ應シ原告第十號證ノ如ク被告ヨリ金四拾九圓借受ノ周旋ヲナシ後チ

負債者山本八十吉鈴木傳藏ニ代テ原告第一號乃至第五號證ノ如ク原告ヨリ被告ニ辨償ナシアルニ被告ニ於テハ原告第一號乃至第五號乃至第五號證ヲ信認セスシテ其返濟金ハ原告ヨリ受領セスト云フモ右第一號乃至第五號證ヲ原告カ所持シ居ル上ハ原告ヨリ代償シタルモノナリト云フニアリ依テ今原告第十號證寫ヲ閲スルニ被告ニ對スル負債義務者ハ山本八十吉鈴木傳藏ノ二人ニテ其抵當トシ差入レアルモ亦タ右兩人ノ所有地ニシテ原告ハ負債者ニアラス亦保證人ニアラス然ラハ則チ實際右金員借用シテ之テ山本八十吉等カ私費ニ充テタルト又ハ一村ノ公用ニ供シタルトヲ論セス被告ニ對スル義務者ハ山本八十吉外一人ナルヿ明瞭ナリトス而メ當初原告カ第十號證ノ貸借ロ入ヲナシタリトテ其負債本主ノ依頼又ハ承認ナキニ原告自己ノ適宜ヲ以テ之ヲ代償シタルノ證左ナリト原告第一號乃至第五號證ヲ呈供スルモ權理者ナル被告カ原告第十號證ノ貸金ハ別ニ之ヲ受領シ原告ヨリハ受取ダルヿナシト明言スレハ第一號乃至第五號證テ第十號證ニ對スルノ返金ノ受領證ト視認サルハ當然ナリトス故ニ東京上等裁判所ニ於テ原告カ主張スル第一號乃至第五號證ハ第十號證ニ對スル返金受領證ナリトハ見認メ難シト裁判セシ所以ニシテ則チ原告第一號乃至第五號證ノ原告第十號證ニ對スヘキモノニアラサルヿヲ裁判シ專ラ原告ハ原告第十號證ノ義務者ナルヤ否ヤノミヲ裁判シタルニ非ス左スレハ東京上等裁判所ノ裁判ハ固ヨリ不法ノ裁判ニハアラサルモノトス

判決

前條ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス

一二

第百八十五號

○訴訟入費償却一件上告ノ判文 明治十一年八月二十日上告 明治十一年十一月十一日申渡

原告　堺縣下大和國葛上郡水野村五百九拾番地平民　森本平藏

右代人　岡山縣下備中國後月郡吉井村四百八番地平民　渡邊謙吉

被告　堺縣下大和國葛上郡水野村平民　水本佐十郎

大坂上等裁判所ノ判文

原告控訴ノ要旨

被告森本平造ヘ掛リタル宅地持主爭ノ詞訟明治十年六月中大坂裁判所堺支廳ニ於テ原告直者トナリタルニ付被告ハ當上等裁判所ヘ控訴及ヒ審問ノ末明治十年十月三十日原告第壹號證據物ノ如ク本文第一號證據物如左

原告證據物第二號ヲ以テ安永年度櫻井村ノ村吏等ヨリ櫻井村領内ノ地所七ケ村ヲ讓リ受ケ其内二筆ノ屋敷地分セテ貳畝拾貳歩ハ則現今受領セシ證據物第二號ノ地券ニ櫻井村ノ内屋敷七畝拾五歩トアル地ニシテ即チ今回爭フ所ノ櫻井村領内ノ被告宅地ニ相當セリト申供シ被告ハ該宅地タルヤ證據物第四號ノ通リ水野村菊松ヨリ讓リ受ケシ林畑貳筆合セテ貳畝拾八歩ノ地ニシテ證據物第二號水野村檢地帳ニモ歴然明記アル貳筆ノ林畑内ニ該宅

一三

地モ胚胎セリ且證據物第五號ノ如ク該宅地内ニ一ツノ神社アリ之ヲ文政年度神道寺村ノ村吏共ヨリ舊藩役所ヘ水野村被告祖父新助屋敷内ニ在リト書上ケリ是レ被告宅地ハ則水野村領内タル證ナリト主張セリ因テ櫻井村元戸長竹村武二郎水野村元戸長福岡伊三郎ヲ審問及ヒシニ地券發行ノ際右両人職務上ニテ之ヲ調査セシニ被告宅地ハ全ク櫻井村領内ニ相違ナキヿハ判然セシ旨證言セリ然レハ被告提供セシ證據物ハ總テ是水野村領内ニ在ル地所々有ノ證ナレハ之ヲ以テ櫻井村領内ニ在ル該宅地ニ附會スヘキノ理ナシ彼ノ被告第五號證據物モ其印影之レナキノミナラス他村ノ者ヨリ神社ノ所在ヲ書上ケシ者ナレハ右神社ノアル該宅地ハ則水野村領内ナルヤ確認シ得ヘキニアラス故ニ是ヲ以テ該宅地ハ水野村領内タルヲ證スルニ足ルヘカラサルナリ又原告

ハ固ヨリ其證據物ノ如ク屋敷七畝拾五歩ノ地ヲ櫻井村ニ於テ所有セシヿハ明瞭タレモ被告宅地ハ其字果シテ原告證據物ニ在ル水ノト稱スルヤ之ヲ證スヘキモノナク且被告該宅地ヲ借リ受ケシ其代料トシテ從來原告ヘ納米セシ證モ分明ナラサレハ原告ノ所有タル櫻井村ノ屋敷地ハ則是被告宅地ニ相當セリトハ見認メ得ヘキモノニアラストス

明治十年十月三十一日　大坂上等裁判所印

裁決ナリクルニ因リ被告ハ曲者ニ有之處豈計ンヤ被告於テ訴訟入費金催促ノ詞訟ヲ大坂裁判所堺支廳ヘ出訴シ明治十一年二月十八日控訴狀掲載ノ通裁判ナリタレモ

本文大坂裁判所堺支廳裁判書

其方共訴訟入費償却方爭訟遂審理處該訴ノ儀ハ大阪上等裁判所

ニ於テ終審ノ裁決ヲ經タル一部分ニテ其曲直ノ如キハ當廳ニ決定スベキモノニ非サルヲ以テ該裁判所ヘ及照會シ處控訴ノ被告則水本佐十郎曲者タルヘクト雖モ訴訟入費附帶ノ裁決ハ未タナサヽル旨回報有之果シテ然ラハ其曲者タル水本佐十郎ヨリ訴訟入費モ亦從ッテ規則ノ通リ償却ヲ爲スヘキモノト可相心得事

明治十一年二月十八日　大坂裁判所堺支廳印

之レニ服スル能ハス如何トナレハ終審裁決ノ結局ヲ熟視スルニ被告カ證據物ノ屋敷地ハ櫻井村ニ於テ所有スルハ明瞭ナレヒ原告ノ宅地ニ相當セリトハ看認得ヘキモノナラストノ旨趣ナルニ因リ原告カ宅地ナシテ被告第一號證ノ屋敷地ナリトノ請求不相立ハ明白ナシハ則該訴ノ曲者ニシテ訴訟入費ハ被告ヨリ償却スヘキモノナリ尤該宅地所屬村ノ爭ヒニ於テハ原告ノ申分採用ナラサルカ如シ

ト雖モ右ハ控訴ノ主義タル宅地持主爭ノ要點ニアラサレハ亦隨テ曲直ニ關渉ナキモノナリ而シテ其主眼爭訟ノ請求相立サル上ハ該訴訟ノ入費ハ被告ヨリ償却相成候樣覆審ヲ乞フ

被告答辨ノ要旨

原告於テ訴訟入費償却ノ儀ニ付大坂裁判所堺支廳ノ裁決ニ不服ヲ唱ヘ控訴ヲナスト雖モ抑訴訟入費ハ詞訟ノ曲者ヨリ償却スヘキモノニシテ其曲直ハ詞訟ヲ判決セラレタル裁判所ノ見認テルハモノナルヲ以テ其裁判所ニ於テ曲者ト明言セラレタル者之ヲ償却スヘキハ論ヲ俟タサルナリ而シテ本訴原告ハ當上等裁判所ノ裁判ヲ受タル節郵紙代價ヲモ上納ナシタルニアラスヤ又初審裁判所ノ判決ハ原告控訴狀ニ掲載セシ如ク當上等裁判所於テ原告ハ曲者ナリト見認ラレタル回答面ノ明言ニ由リ裁判ナリタル義ナレハ之レヲ以

テ控訴ヲ爲ストモ其申述ノ不當ニシテ入費償却ノ義務ヲ免ル能ハサルハ勿論ナリ因テ右入費ハ原告ヨリ速ニ償却ナスヘキ樣裁判ヲ乞フ

判決

被告於テ訴訟入費ハ曲者ヨリ償却スヘキモノナレハ嚮キニ當上等裁判所ニ於テ裁判ヲ受タル節原告ハ罫紙代價ヲモ上納シ且當上等裁判所於テ原告ハ曲者ナリト見認ラレタル回答書ニ依リ初審裁判所ニ於テ裁判ナリタルモノナレハ訴訟入費ハ原告ヨリ償却受度旨申立ルト雖モ該訴ノ曲直ハ原告カ提供セル第一號終審裁判ニ據ラサル可ラス今其判決文ニ依ルトキハ原告カ提供セル證據物ハ櫻井村屋敷地ノ證ニハ相立タスト雖モ此レハ是レ宅地持主爭ノ主要ニ關セス而シテ被告カ提供セル證據物ハ櫻井村地内ニ於テ七畝拾五歩

ノ屋敷地ヲ所有セシノ證憑タリト雖モ未タ原告カ宅地ニ相當セリト確定スヘキコトアラサレハ原告ヘ對シ宅地所有ノ爭論ヲナスヘキノ理由ナシ依之被告該訴ノ曲者ナリトス

右ノ筋合ナルヲ以テ訴訟入費ハ被告ヨリ原告ヘ償却スヘキモノナリ

明治十一年六月五日

大審院ニ於テ

原告代人　渡邊謙吉上告ノ要領

第一條

大坂上等裁判所ノ裁判タルヤ結局原告ハ本訴原案ノ曲者ナルヲ以テ訴訟入費ハ原告ヨリ被告ヘ償却スヘキモノトセラレタレトモ嚮キニ同裁判所ヘ大坂裁判所堺支廳ヨリ原案原被ノ曲直照會セラレシ處被告曲者タルヘキ旨回答セラレシニ今又原告ヲ曲者ナリト認

定セラレシハ前後矛楯セシ不法ノ裁判ト思考ス

第三條

大坂上等裁判所ニ於テ本訴原案ノ裁決セラレタル節其罫紙代價ヲ被告ニ取立テラレシハ蓋シ明治九年司法省第四號達罫紙取扱心得第二條ノ明文ニ準據セシモノナルヘシ果シテ然レハ其處分タルヤ終審裁判ノ一部ニシテ其曲直ノ如キハ業已ニ確定セシモノナレハ被告於テ上告手續ヲナサヽル以上ハ裁判官ト雖モ復タ之レヲ動カシ得ヘカラサルモノナルヘシ然ルニ前顯ノ如ク判決サレシハ既ニ確定セシ裁判ヲ再裁判セラレタルモノニテ則チ聽斷ノ定規ニ背キタルモノト思考ス

第三條

大坂上等裁判所ノ判文ハ原告カ被告ヘ對シ原案宅地所有ノ爭論ヲ

爲スヘキノ理由ナキニ付原告ヲ以テ曲者ト認定セラレタレモ抑モ原按宅地所有ノ爭論ヲ初告ナシタルハ被告ニシテ敢テ原告カ該訴訟ヲ提起ナシタルモノニ非サレハ原告ナシテ訴フヘカラサルノ訴ヘヲ爲シタルモノトセラルヽノ理ナシ且ツ始審裁判タルヤ原告カ櫻井村ニ於テ七畝拾五歩ノ地ヲ所有セシ證ヲモ併セテ無効ノモノトセラレタレモ終審裁判ニ於テハ原告カ櫻井村ニ於テ七畝拾五歩ノ地ヲ所有セシコハ明瞭ナリト判決セラレシナレハ原告ヲ以テ曲者ト認定セラルヽノ理ナシ依テ大坂上等裁判所ノ裁判ハ不法ノ裁判ト思考ス

辨明

原告ハ大坂上等裁判所カ爰ニ大坂裁判所堺支廳ヘ回報シテ被告ヲ曲者ト見認シ上告ノ裁許用罫紙代價ヲ被告ヨリ徵收セシ上告ノ第一條

二條終審裁判ニ依テ原告カ七畝拾五歩ノ地ヲ櫻井村ニ於テ所有スル
ト判然タルト第三條ノ上告ヲ以テ本訴ノ入費ハ原告ノ負擔スベキモノニ
非スト申立レモ大坂上等裁判所カ大坂裁判所堺支廳ノ尋問ニ回報
シテ被告水本佐十郎ヲ曲者ト見認シモ此ハ是レ堺支廳ヘノ回報ニ
シテ訴訟入費ノ裁決ハ大坂上等裁判所ニ於テ未タナサヽレハ假令
ヒ堺支廳カ其回報ニ遵テ初審ノ裁判ヲ爲スモ大坂上等裁判所ハ更
ニ眞理ノアル所ヲ推究シテ之カ判決ヲ爲スハ相當ノコトナリ以上第
一條ノ辨明又裁許用罫紙代價ヲ曲者ヨリ徵收スルハ裁判所ノ成規ニシテ大
坂上等裁判所カ之ヲ被告ヨリ徵收セシハ不相當ノ所分ナリトスレ
モ是決以テ一ノ裁判ト見做スヘキモノニ非ルハ論ヲ俟ス然ハ則チ
被告ニ於テ罫紙代價ヲ納附スルノ所分ヲ甘受スルモ原告ニ係リ本
訴ノ入費ヲ請求スルノ妨ケトナルヘキモノニ非ス以上第二條ノ辨明又終審

裁判ニ依テ七畝拾五歩ノ地ハ判然タリトスルモ該訴訟ノ主旨タル
ハ宅地持主ノ爭ニシテ該裁判ノ結局ハ原告カ所有スル櫻井村ノ屋
鋪地ハ被告ノ宅地ニ相當セシトハ見認メ得ヘキモノニ非ストアレ
ハ當初原告カ被告ノ宅地ヲ見認テ己レノ所有ナリトスルノ目的ヲ
失ヒタルモノニテ判文中纔カニ七畝拾五歩ノ地カ判然スルモ本訴
ノ主要トスル持主爭ノ事ニ關セサレハ假令ヒ訴訟ノ提起ハ被告ニ
在トスルモ原告控訴ノ主旨ハ達セサルモノナレハ大坂上等裁判所
カ終審裁判ノ主旨ニ據テ原告ヲ該訴ノ曲者ト判決セシハ不法ノ裁
判ニアラス以上第三條ノ辨明

判決

右ノ次第ナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモ
ノトス

第百八拾六號

分界地爭論上告ノ判文

明治十年十月十七日上告
明治十一年十一月十三日申渡

長野縣北第拾三大區八
小區信濃國埴科郡柴村
同村貳拾九番地僧　佐藤隆道
右總代
東京神田區今川小路壹
町目壹番地寄留茨城縣
平民　茂手木慶信
右總代
同村平民　宮下織右衛門
同　倉崎榮太
東京神田區美土代町貳
町目壹番地寄留長崎縣
平民　本多潤

長野縣北第十六大區七
小區信濃國更級郡小島
田村
被告

東京上等裁判所ノ審判

原告小島田村總代言人本多潤控訴ノ要領　明治十年二月十六日

原告小島田村ハ千曲川ノ流レヲ受クルヲ以テ往古ヨリ數度水害ヲ蒙リ就中寛保二年ノ大洪水ニハ田畑畦畔盡ク舊形ヲ失フタルニ付

明和二年改メテ其筋ノ檢地ヲ受ケ隣接八箇村ノ境界ヲ定メ各村々吏調印シ別紙第一號繪圖ヲ製シ既ニ被告柴村ハ其境界墨線ヲ確認シ之ニ調印ヲナシ尚左ノ第二號證ヲモ爲取替置タリ

第二號

覺

一柴村川岸見通シ境當村彌陀堂境内ノ大榎木ヨリ西拾九間川欠敷柴村分是ヨリ西方川敷上大鋒寺樣御浦川端壹本柳ヨリ内壹間引テ當村川欠敷ニ御座候

右之通小島田村双組柴村立合ニテ相立申候如斯御座候以上本證ト重テ取替セ可仕候

明和二年酉八月二十二日　柴村役人印

雙小島田村御役人中

爾後追々開發シテ荒蕪ノ地モ漸々熟地トナシ公租ヲ納メ來リシ處安永八年ノ水害ニ再ヒ岸邊ノ地荒蕪ニ屬シタリ然ルニ被告柴村ノ中ニ大鋒寺ト稱スル寺院アリ舊松代藩主ノ菩提所ニシテ其待遇特ニ厚キヲ以テ藩主ニ於テ千曲川ノ餘流或ハ該寺境内ヲ害セン可ヲ慮リ文化五年中上小島田村境字三願寺字寺尾境石砂原ヲ堀割リ千曲川ノ水路ヲ移シタリ爾來上小島田村ノ地形ハ別紙第三號圖ノ如シ變シ千曲川新流ノ東岸ニ石砂原ノ舊川敷ヲ存セリ是即チ本訴ノ論地ナリ原來原被兩村ノ境界大鋒寺境内ニ掛ル分ハ第一號圖面附箋ノ如ク求ク判然セサルモ第二號ハ第一號圖ノ傍證ニシテ一本柳迄ノ境界ハ既ニ判然タリ此ヨリ先キニ當ル地ハ固第一號圖附箋ノ如クナレ𪜈此附箋ニ依レハ原被ノ境界ハ大鋒寺境内ニ係リ其境外即チ論地ハ上小島田村ノ所有タル可明瞭ナリ右附箋ノ文ハ左ノ如

シ
從是南川敷ト當村地境ノ儀ハ此印ヨリ大鋒寺境内ニ付右寺ヘ罷
リ出會議仕早速可申上候
然ルニ近來被告柴村ニ於テ恣ニ舊川敷石砂原ノ樹木ヲ伐採セシニ
付明治六年三月中原告小島田村ヨリ之ヲ制止セシニ該地ハ未タ境
界定ラサレハ原告ノ指揮ヲ受クルノ理ナキ旨答フルニヨリ假令境
界未定タリトモ擅ニ伐採スベキニアラサル旨再答シ是ヨリ雙方紜議
ヲ生シ訴訟ヲ爲ニ至レリ抑本訴ノ論地ヲ原告村ノ所有ナリト爭フ
ニ其境界ヲ證スルニハ第一號繪圖第三號明和三年ノ爲取替書アリ
其所有ヲ證スルニハ第四號明和二年檢地帳第五號以下ノ皆濟目錄
アリ而シテ右第一號明和度圖面墨引ハ即チ原告小島田村ト各村ト
ノ境界ニテ墨引内ハ都テ小島田村地内タルハ瞭然ニシテ當時小島

ち

田村ハ上下兩組ニ分レ居リシヲ以テ圖中兩組分トアリ然ルニ被告
ハ該墨引ハ川欠敷ト被告村トノ境界ナル旨且川欠敷ハ元ヨリ官有
ニシテ人民ノ之ヲ所有シ得ルモノニアラス都テ開發シタルモノ之
ヲ所有スヘキモノナリト嘗テ申立タレモ明和二年爲取替書ニ川欠
敷トアルハ都テ小島田村分ナリ若小島田村ニアラストセハ被告柴
村ト川欠敷トノ境界ヲ定メテ小島田村ト川欠敷ノ境界ヲ定メサル
ノ理由ナシ然ルニ小島田村ト川欠敷トノ境界ヲ記セス唯柴村ト川
欠敷トノ境界ノミヲ小島田村ト各村トノ境界ト同シク墨引ヲ以テ
畫シタルハ川欠敷ハ即チ原告小島田村分ナルヲ以テナリ且被告第
七號即チ原告第四拾貳號明和二年酉十月ノ爲取替書第二項阿彌陀
堂境内大榎ハ枯朽シ方今其痕跡ヲ知ルヘカラサルヤ天明度之カ爲
メ境界ノ原度ヲ改定シ左ノ第四拾三號證ノ如ク證書爲取替タリ

第四拾三號

大境立合證文ハ事

一下小島田村ト柴村ト大境前度兩村役人立合柴村阿彌陀堂境内ノ内大榎ヨリ西ヘ小島田村大境迄拾九間ト相極申候所此度大榎口申候ニ付別當主計殿ニテキリ申候依之天明元年丑十一月四日再改兩村役人立合阿彌陀堂御拜西ノ杭ヨリ西ヘ右大境迄三拾八間ト相改申候所相違無御座候爲後日兩村役人取替セ證文如斯御座候以上

下小島田村　名主　利兵衛印

天明元年丑十一月四日

組立

彦三郎印

長百姓　久之丞印

組立

彦右衛門印

同斷　吉郎治印

柴村

御役人　柴中

右ノ如クニシテ文中小島田村大境トアルハ明和度ノ川敷タルヿ明了クリ然ラハ則チ川敷トアルハ亦小島田村大境タルヿモ明ナリ又第四號檢地帳ニ寺尾境砂原新田トアルハ現今川敷トナリシ場所ニ

テ舊川ト新川トノ間ニ有之右場所ハ第五號安永度初テ開發シ貢稅地ニ相成タリ尤皆濟目錄ニハ別段石砂原ノ明記アラサルモ外ニ新田受ノ地無之故皆濟目錄ノ新田二石八斗ハ論地ノ部ニ當レリ因テ速ニ地所引渡シ併セテ伐採セシ立木價額ノ償モ受度且被告申立ノ如ク實地ノ檢査ハ原告モ望ム所ナリ但シ被告第七號即チ原告第四拾貳號明和二年ノ爲取替證中第一項ノ町頭ツキノキノ傷所ヘ被告申立ル通リ相違無之第三項ヨリ第七項迄ハ聊異議アラサルナリ又被告ヨリ差出ス寛政九年ノ繪圖ハ眞生ノモノナリ

被告・柴村總代富岡太兵衛外二人答辨ノ要領

元來論地ハ被告柴村ニ屬シ來ルコトハ已ニ百三十餘年ノ久シキニ及ヒ而シテ原告第一號繪圖千曲川ノ乾涸シ砂原トナリタルハ寛保二年ノ事ニシテ爾來之ヲ古川敷ト稱シ原被孰レヘ屬スルヤハ未定ノ

地ナリシカ延享四年ニ於テ被告ハ右一號繪圖東寺尾川敷ト記セル墨點ノ所ヨリ北大鋒寺境外川敷境ニ於テ淡墨線ノ終ル所迄開墾高受セシハ當時當村大鋒寺ヨリ舊藩廳ヘ差出シタル左ノ第二號高受願書寫ニテ明ナリ

第二號

口上ノ覺

當寺境內川邊通リ近來段々欠入申候處去ル戌ノ滿水以來右欠入候場所地先通リ砂溜リ出來仕候依之御檢分被仰付右欠入候境內間數ノ外通リ相應ノ御高請仕御靈屋寺中爲園拙寺相續仕度奉存候何分ニモ御檢分ノ上宜樣被仰付可被下候奉願候以上

延享四丁卯年八月　　大鋒寺

山岸文太夫殿

成澤新彌殿

於是所屬未定ノ地ハ初テ當柴村ノ所屬ニ歸シ爾來貢租ヲ納メ所有セシハ別冊第三號皆濟目錄第四號名寄水帳及ヒ第五號地券證ニテ判然タリ右名寄帳中上河原卯新田申新田トアルヲ皆濟目錄ニ照査シ尚此目錄ヲ精細ニ調査スレハ論地ハ貢稅地タルヿ愈明ナリ然ルニ原告ハ原告第一號繪圖墨線ヲ以テ原被既定ノ境界トシ同圖附箋ヲ以テ原告ノ境界ハ大鋒寺境内ニ掛ル旨申立ルヒ右一號圖ハ下小島田村ト當柴村トノ境界ト古川敷ト柴村ノ境トヲ定メシモノニテ原告上小島田村ノ境界ヲ定メシモノニ無之故ニ圖中ニ於テ下小島田村ノ境ヲ眞墨線トシ古川敷境ヲ淡墨線トナシ置附箋ニモ南川敷上當村柴村トノ境ハ云々トアリテ小島田村ト柴村トノ境ト以無之而シテ古川敷ノ境界ヲ指シタルヿハ又左ノ第七號證ニモ明ナリ

第七號

兩村證文取リ遣リ之事

一柴村町頭ッキノ木ヨリ西十三間半内ヲ御本田欠跡外川敷

一同村阿彌陀堂境内大榎木ヨリ西ヘ十九間内ヲ御本田川欠外ヲ川敷

一同村堂浦道御普請所土手ヨリ西ヘ六十間内ヲ御本田欠跡外ヲ川敷

一同村五里原道御普請所土手ヨリ亥方ヘ九十一間ヲ御本田欠跡外川敷

右之通柴村御本田川欠敷ニ川敷トノ境立合間數相違無御座候

一略ス

一略ス

一同村大鋒寺様御境内ノ内ヲ越テ南ハ小島田柴両村境無御座候一
右之通小島田村ト柴村ト境立合間數相違無御座爲後日如此御座
候以上

明和二年
酉十月

名主　市郎左衛門
同斷　茂右衛門
組頭　七左衛門
同斷　磯右衛門
長百姓

柴村

御役人中　重右衛門
同斷　勝之丞

右第七號ノ第一項ニ御本田トアルハ柴村ノ本田ヲ指シタルモノニテ末項ニ大鋒寺境内ヲ越テ南ハ小島田村柴村ノ境ナキヿ明記アリテ原告小島田村ノ境界ハ大鋒寺境内ニ掛ルモノニアラス且大鋒寺ノ西ハ一圓古川敷ニシテ前文辨論スル如ク當柴村大鋒寺開墾ノ後柴村ノ所屬地トナリタレハ原告ヘ今更附與スヘキモノニアラス且原告ハ第一號繪圖墨線ヲ以テ確證トスレトモ當柴村ニ於テ寛政九年現ニ右墨線ヲ超テ高受ケナシタル地アルナリ又原告ニ於テ千曲川

ハ文化度藩主ニ於テ川流ヲ移シタル旨申立レ𪜈右ハ寶暦三年洪水
ノ爲メ東寺尾村ノ堤ヲ崩シタルニヨリ安永年中藩主ニ於テ之ヲ修
覆シ川瀬ヲ變シ現今ノ姿トナリシナリ又原告ハ伐木云々申立レ𪜈
右樹木ハ被告村方本田ノ中ニアリテ千曲川ノ東側ニ尙其古株ヲ存
セリ如此ニ付實地檢査ノ上至當ノ裁判アランコトヲ乞フ

[illegible]判文[illegible]

[illegible]第一條[illegible]

被告ニ於テ論所中ニ延享四年高受セシ地アリト申立ルト雖モ延享
四年ハ明和二年ヲ去ル十九年ノ前ニアリ然ラハ明和二年ノ繪圖ニ
其境界ヲ明カニセサルノ理ナシ殊ニ高請願書モ只一通ノ草稿ニ過
サレハ裁判ノ證據トスルニ足ラス第三號ノ皆濟目錄ニモ高ノ增減
ト新川欠酉川欠ノ數字アルノミニテ論所ヘ適當スル證據ト認ル能

ハス第四號名寄水帳ニ上川原ノ二筆アレ𪜈地券ニ載スル字村南上
川原字村南ノ地ト同地ナルヤヲ知ルニ由ナシ加ルニ名寄帳ハ被告
村方ニ於テ編成セシ所ノモノニ付原告ヘ對スル證據ト爲スニ足ラ
ス其上字上川原ト號クル地ハ本訴ノ論所ナルヤヲ定ムルノ證據モ
ヲ少シレハ到底論所中ニ延享四年ノ高受地アリトノ申分ハ採用シ難
シ[illegible]

[illegible]第二條[illegible]

論所現今ノ地勢ハ原被ノ兩圖各些少ノ異同ナキ能スト雖モ暫ク被
告第二號實測圖ニ據リ以テ被告ノ看認テ眞正トナス所ノ原告第一
號明和二年ノ繪圖ニ比較スレハ論所ニ在ル千曲川ハ明和二年ノ後
ヲ瀬ヲ變シ西遷シテ原告ニテ石砂原ト稱スル地ヲ流ルヽニ至リシ
ハ歴然見ル可シ而シテ其遷轉ノ原因ニ至ツテハ原告ハ之ヲ人工ナ

リト云ヒ被告ハ天造ナリト云ト雖モ原因如何ヲ論セス結局原告ハ是カ爲メニ石砂原ノ一部分ヲ失ヒタルニ相違ナシ然ハ則是カ爲メニ顯出シタル古川敷ヲ得テ其失フ所ノ償ヒトスルハ至當ノ理ナレハ論所ノ千曲古川敷ハ原告小島田村ヘ屬ス可キモノトス

第三條

前條々ノ理由ナルニ因リ本訴ノ論所千曲川ノ東岸大鋒寺ノ西側ニ在ル千曲古川敷ヨリ以西ノ地ハ原告小島田村ノ地所ト可相心得且被告カ先年論所ニ於テ伐採タル材木ノ價モ被告ヨリ原告ヘ可償却事

但原被告ニ於テ原告第一號繪圖墨線ノ濃淡ト同第四拾貳號證書中ノ文字ニ就テ相爭フト雖モ畢竟是等ハ本訴ノ論地ニ關係ナク且裁決ノ要點ニ非ル儀ト可心得事

明治十年八月二十二日

大審院ニ於テ

原告　柴村總代佐藤隆道外一人上告ノ要領

第一條

東京上等裁判所判文第一條ニ於テ論所中ニ延享四年ノ高受地アレハ明和二年ノ圖面ニ其境界ヲ明カニセサル理ナキ旨裁判セラレタレモ延享四年ノ高受地ハ即チ大鋒寺ノ境内ナルヿ其高受願書ニ〔御靈屋寺中圍トシテ拙寺相續〕云々トノ明記アルヲ以テ知ルヘシ而シテ其境界ハ大鋒寺ニ謀リ追テ明ニスルノ意ナレハ明和二年ノ圖面ニ〔是ヨリ南川敷ト當村境ノ儀ハ此印ヨリ大鋒寺樣御境内ニ付右寺ヘ罷リ出テ會議仕早速可申上候〕ト附箋セシモノニテ當時其境界ヲ明カニセサル理由如此明カナルヲ斯ク判決セシハ事實ヲ窮メサル裁判ナリト思量ス

又同條ニ於テ名寄帳ニ上河原ノ二筆アレモ地券ニ載スル字村南上河原村南ノ地ト同地ナルヤヲ知ルニ由ナシ或ハ上河原ト號クル地ハ論所ナルヤヲ定ムルノ證據ナケレハ云々ト裁決セラレタレモ明治五年大藏省第百二十六號布達ニ基キ我柴村ニ於テハ古帳簿ヲ調査シ地名反別所有ヲ點檢シ新タニ製スル地順帳從前ヨリ存在セル名寄帳其他切圖等ヲ本縣ヘ捧呈シ地方官ノ實地檢査ヲ受ケ相違無之旨ヲ以テ明治六年七月中地券證ヲ下附セラレタリ然ラハ則チ大鋒寺ノ所有タルハ確乎明瞭ナルノミナラス現ニ該地ニハ小作者アリテ租稅モ納メ來ル明證アルニ上等裁判所ハ本訴ノ論地ナルヤヲ定ムルノ證ナシト裁判セシハ實地ニ適セサル不當ノ裁判ナリ

第二條

同判文第二條ニ於テ結句小島田村ハ石砂原ノ一部分ヲ失ヒタルニ

相違ナケレハ是レカタメ顯出シタル古川敷ヲ得テ其失フ所ノ償ヒトスルハ至當ノ理ナリト一概ニ論下シタルハ不法ノ裁判ナリ何トナレハ千曲川西遷シ小島田村カ呈供スル第一號圖面ノ石砂原ヲ流ルヽニ至リシハ文化五年ナリト被告自ラ明言セリ然レハ此時ニ方リ小島田村ニテ石砂原ノ一部分ヲ失ヒ柴村ヘ古川敷ノ顯出シタルヤ明カナリ然ハ則チ其顯出ハ今ヲ距ル二實ニ七十一年ノ久シキヲ經過スモシ果シテ小島田村ノ屬地トセハ何ノ理アリテ七十一年ノ久シキヲ默許シタルヤ附寄洲ヲ以テ其地先ノ進退トスルハ我國ノ慣行ニテ維新ノ今日ニ及フ處ナリ加之論所字村南畑壹町八反五畝八歩ハ大鋒寺住職佐藤隆道私費ヲ以テ開墾シ已ニ五ケ年ノ鍬下年季モ經過シ至當ノ貢租ヲ納メテ地券證ヲ所持スル上ハ明治九年太政官第六十七號ノ布告ニ照シ純乎トシテ所有ノ權ヲ保ツモノナリ

又論所字村南上河原畑一町九反拾八歩ハ素ヨリ大鋒寺ノ所有ナルヲ以テ明治五年大藏省第百二十六號布達ニ照ラシ券證ヲ受ケタルモ我柴村ニテ之レヲ管掌シ川ニハ筏ヒヲリヲ建テ陸ニハ堤防ヲ築キ七十有餘年力ヲ保護ニ盡シタルヲ俄然今日ニ至リ被告カ曾テ失フタル石砂原ノ代償トシ之レヲ被告小島田村ノ所屬トナスハ最モ不法ノ裁判ト思量ス而シテ被告第一號圖面寺尾村境石砂原ノ中央ニ川敷境ノ墨點アリ大鋒寺裏ニ當ル附箋ニモ亦川敷境トアリ然ラハ則チ明和以前ニ於テハ千曲川ノ本瀬ハ被告ノ稱スル石砂原ノ地ニ在リシモノニテ此石砂原ハ固ヨリ古川敷ナルヲ上等裁判所ハ其根原ヲ窮メス石砂原ノ一部分ヲ失ヒタルモノト見認メ我柴村ノ地ヲ被告小島田村ヘ属スヘキト判決セシハ不當ノ裁判ト思量ス

第三條

同判文第三條ニ被告カ（上告原告）先年論所ニ於テ伐採タル材木ノ價ハ被告ヨリ原告（上告被告）ヘ可償却ト裁判セラレタレトモ論地ハ大鋒寺並ニ同寺住職佐藤隆道ノ所有ニシテ我柴村ノ所有ニアラス（論地ニアル坡塘ハ柴村ノ堤防ニシテ官有地ナリ）本訴ハ原被兩村ノ分界ヲ爭ヒシマテニシテ所有ノ裁判ヲ仰キシモノニアラス故ニ該判文ニ於テ所有ノ權ハ被告小島田村ヘ移シタルモノトセハ明治九年太政官第六十七號ノ布告ニ抵觸セル不法ノ裁判ナリ何トナレハ開墾培栽ハ佐藤隆道ニシテ已ニ地券證ヲ所持シ定マリシ所有主アレハナリ而シテ上等裁判所判文ノ如ク小島田村ノ石砂原ノ一部分ハ滅盡シテ千曲川ノ本瀬トナリ爲メニ論所ヲ顯出シタルモノナリトセハ其顯出シタル地ハ本邦ノ法律ニ於テハ官有地ニシテ民有地ニアラサルヤ明カナリ如此未タ民有ニ歸セサル地トセハ何ヲ以テ小島田村ヘ樹木ノ代價ヲ償フノ理ア

ラズヤ固ヨリ論地ハ前條々陳スル如ク佐藤隆道ノ所有ナレハ佐藤隆道カ伐木シタルナリ然ルヲ我柴村ノ全村ヨリ伐木代價ヲ償フヘシトハ是亦不法ノ裁判ト思量ス

第四條

同條但書ニ於テ明和二年酉十二月原被告村立會ノ上境界ヲ取調タル爲替契約書（被告四十二號證）ヲ本訴ノ論地ニ關係ナシト裁判セラレタレトモ該契約書ニ大鋒寺樣御境内ノ内ヲ越テ南ハ小島田村ト柴村トノ境界無之云々トアリ而シテ明治十年十一月中上等裁判所ノ裁判ヲ執行セシ處別紙執行圖面ノ如ク午ノ拾八歩ニ方リテ小島田村ト柴村トノ境界顯出セリ如斯本訴ノ論地ニ關係アル緊要ノ證書ヲ措テ之レヲ採用セサルハ聽斷ノ定規ニ乖キタル裁判ト思量ス

第五條

明治七年四月廿日附ノ圖面ハ縣廳ノ命令ヲ以テ隣村並ニ區戸長立會ノ上取調ヘ原被雙方ヘ分與セラレタルモノニ付該件ニ對シ原告ノ權利ヲ保ツヘキ證左ナルヲ東京上等裁判所ハ唯之ヲ檢査シタルニシテ原告ノ權利ヲ保ツヤ否ヤノ判文ヲ下サヽルハ是亦聽斷ノ定規ニ乖キタルモノト思量ス

前條々ノ理由ニ付東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀セラレンコトヲ乞フ

被告　小島田村總代宮下織右衛門外二人答辨ノ要領

第一條

論地ハ決シテ大鋒寺ノ境内ニアラス舊川敷即チ明和度圖面ノ川底ニ當ル地ニシテ該圖附箋ノ塲所トハ同一ノ塲所ニアラサルヿ圖面ニテ一目瞭然タリ殊ニ明和度圖面陸地ノ分ニ川敷ノ係ル所ハアル可キモ境内ノ水流中ニ在ル理ナケレハ今般ノ論地モ亦境内ニ在ル

ノ理ナシ如此論地ハ舊川敷ニシテ境内ニアラサルヿ明瞭ナレハ境内ニ竿請アルモ論地ニ關係ナシ且大鋒寺屋敷地ト論地トノ間ニ東西二拾間餘ノ田畑アリ若シ原告カ眞ニ竿請ナシタル地アラハ其地ハ則チ此田畑ニ當ルヘキモノニシテ決テ論地ノ竿請ニアラサルナリ何トナレハ論地ハ近來沃土トナリシモノニテ明和度以前ニ於テ竿請ケスルノ理ナケレハナリ

又原告ハ字村南上河原ノ事ヲ論スレトモ其字ハ或ハ原告村ニアル字ナルニセヨ其字ノ論地ニ當ルノ明證ナキヲ如何セシ且該論地ハ明治六年二月ヨリノ爭論地ナリ總テ爭論中ハ地券ヲ下付セラレサル例ナレハ該論地ノ地券ヲ下付セラル丶ノ理ナシ然ルヲ下付セラル丶ハ顧フニ論地ニ當ルノ地券ニハアラサルヘシ

第二條

該論地ハ七十餘年原告ニ於テ進退シ云々申立レトモ水路遷轉スルモ數十年ヲ經サレハ草木ノ生スルモノニアラス故ニ該地ニ於テ流水ノ乾涸セシハ數十年ノ久シキヲ經シト雖モ沃土積ンテ草木ヲ生シタルハ近來ノ事ナリ抑該訴ノ起リシハ原告ニ於テ右ノ草木ヲ剪伐シタルニヨリシモノニテ其以前ニ於テ該地ヲ開墾シタルモノニアラス而シテ爭論中妄ニ之レヲ開發シタレトモ控訴中ハ尚些少ノ地ナリ且ツ原告ハ控訴審理ノ際開墾地ナルヿハ一回モ陳述セス却テ荒蕪地ト明言シ上告ニ至リ遽カニ開墾云々ト變言セシモノナリ彼ノ佐藤隆道開墾ノ如キハ論地ト大鋒寺屋敷地トノ間ニアル田畑ニシテ論地ト別所ナリ

又附寄洲ヲ以テ其地元進退云々申立レトモ原告ノ云フ如キハ自然ノ附寄洲ヲ云フヘクシテ彼ノ岸ノ地ヲ裁割シテ此地ニ生シタル地ヲ

論スヘキモノニアラス論地ノ如キハ則チ失フタルヨリ生セシ地ニシテ之ヲ失フタル土地ニ屬スルハ土地ノ慣例ナリ故ニ明和度ノ圖ニ川敷トアル川東ノ地ハ文政ノ圖面ニ於テ盡ク被告下小島田村ノ地トナシ置ケリ是其證左ナリ彼ノ堤筏云々ノ儀ハ虚言ニシテ其堤ヲ虚稱スルモノハ流水ノ爲メ自然ニ凹所トナリタルモノニテ筏ノ如キハ明治十一年中原告カ妄ニ取設ケタルモノニテ當時其暴行ハ警察署ニ屆ケ置ケリ且ツ控訴中ハ此筏アラサルヲ以テ筏ノ事ニ付キ更ニ陳言アラサリシナリ又第一號圖石砂原ノ中央川敷境ノ墨點アリ云々申立レヒ右ハ他村ノ事ニシテ原被村ニ關スヘキニアラス且該墨點ハ川敷西境ナレハ之レヲ以テ往古ノ流川ハ今日ノ流川ト同所ナリト云フヲ得ス殊ニ川敷ハ明和度圖面ニ依レハ總テ流川ノ東ニアリテ河西ニ川敷アル

ヲ見ス是レ明和以前ノ水路ハ明和度水路ノ東ニアリシヲ知ルヘシ故ニ原告モ寛保三年ノ洪水ニテ水路ハ西ヘ轉シタリト陳辨シ置今日ニ至リ明和度ノ流水ハ東遷シタル趣申立ルハ不實ノ陳述ナリ

第三條

該訴ハ原告村ヨリ起シタルモノニシテ原告村人民總代ヨリ被告村村吏並ニ人民總代ヘ係リ訴ヘ出テ其爭フ所ハ各自分ノ所有ナリト申立テタルモノナレハ所轄權ト所有權トヲ兼タル訴訟ナルヿ明瞭ナリ而シテ該訴ノ起ル時荒蕪地ナリシヲ以テ常ニ荒蕪地ヲ以テ爭フタリ故荒蕪地ヲ以テ裁判アリシモノナリ又古川敷ハ官有ナリト原告申立レトモ人民所用ノ地ナレハ未タ地券ヲ受ケサルモ民有地ナリ若シ民有ニアラストセハ原告ハ當初ノ訴訟ニ於テ官ニ對シ訴ヲ起スヘキニ却テ被告人民ヘ掛リ訴ヘタルハ何等ノ故ナルヤ如此

既ニ民有タルヿハ明瞭ナルヲ以テ被告ノ所有ト決定セシ上ハ伐木代價ヲ償却セヨトノ裁判ハ至當ト云ヘシ而シテ原告ハ佐藤隆道一己ノ所有ト稱シ地券ヲ證左トスレトモ其地券ハ論地ノ地券ニアラス殊ニ控訴中陳述セサルヿナレハ固ヨリ無効ノ陳述ト思考ス

第四條

明和二年酉十二月原被告村爲取替書ニ大鋒寺境内ノ内テ越ヘテ南ハ小島田村ト柴村ト境界無之トアルヲ引ヒテ種々陳述スレトモ大鋒寺ノ境内盡クレハ南ハ即チ東寺尾村ニシテ原被兩村ノ地ハ此地ニ至ラサル故兩村ノ境界モ亦此地ニアルノ理ナシ是レ該爲取替書ニ境界ナシト記セシモノナリ已ニ原告モ東京上等裁判所ニ於テ明治十年五月十六日〔大鋒寺境内ヲ越ヘ南ハ寺尾村ニ付キ原被兩村ノ境無之ト該書ノ末項ニ記シ置候事〕ト申立テタルニアラスヤ然ルヲ

今又言ヲ變シテ吻々スルハ不當ナリ且境界顯出セリ云々申立ツルハ論地ノ境界ヲ指ス歟論地ハ大鋒寺ノ西ニシテ南ニアラス其南ニ兩村境界ハアラサルナリ

第五條

明治七年四月二十日附ノ圖面ハ原被告村ニ關係アルモノニアラス亦論地ニモ關係ナキモノニシテ他村ノ圖面ナリ故ニ該訴ノ證トナスヘキニアラサルモノト思考ス

辨明

第一條

本訴論所中原告柴村ノ高受地アリトノ申立ニ付其證トスル處ハ延享年度ノ高受願書寫第三號皆濟目錄第四號名寄水帳地券及論所中原告柴村佐藤隆道並大鋒寺カ支配スル處ノ田地等ナリ而シテ此爭

論ニ付佐藤隆道等カ支配スル田地ハ最モ要用ナル證據ナレハ先以之カ審理ヲナスヘキ者トス何トナレハ右ノ田地ハ現ニ佐藤隆道等カ支配シ居者ニ付被告小島田村ニ於テ已レカ所有タル明確ナル證據ト佐藤隆道等カ之ヲ不正ニ支配シタル證據トアルニアラサレハ之レヲ撲滅スヘキ者ニアラサレハナリ故ニ右高受地ヲ判定スルニハ佐藤隆道等カ即今支配スル田地ノ審理ヲ爲シ然ル後名寄水帳及地券ニノスル字引合セ等ノ吟味ニ及フヘキ筋ナルニ東京上等裁判所ニ於テ右田地ノ審理ヲナサヽリシハ之ヲ審理ヲ盡サヽル裁判ナリトス

第三條

東京上等裁判所判文第三條ニ於テ論所ノ千曲古川敷ハ被告小島田村ヘ屬スヘキ者ト判決シタルハ之レヲ不法ノ裁判ナリトス

何トナレハ千曲川ノ川流明和二年ノ後瀬ヲ變シ西遷シテ被告ニ石砂原ト稱スル地ヲ流ルヽニ至リシハ歴然見ルヘシトシ被告ハ現ニ石砂原ノ一部ヲ失ヒタル者ニ付其代地トシテ古川敷ヲ所有スヘキ權利アル者トスルモ其所屬ニ至テハ自カラ屬スヘキ處アル者ナレハ其所屬ノ證據ヲ吟味シタル上ニアラサレハ之ヲ判定スヘキ者ニカラサルニ東京上等裁判所ニ於テハ其證據ノ有無ヲ吟味セス論所ノ古川敷ハ曾テ被告カ失フタル石砂原ノ償地トシテ之カ所屬ヲ判定シタレハナリ

第三條

東京上等裁判所判文第三條ニ於テ本訴論所千曲川ノ東岸大鋒寺ノ西側ニ在ル千曲古川敷ヨリ以西ノ地ハ被告小島田ノ地所トシ且原告カ伐採セシ材木ノ價モ被告ヘ償却スヘシト判決シタルハ之ヲ不

法ノ裁判ナリトスト何トナレハ本條原告カ伐採セシ材木ノ價ヲ被告ヘ償却スヘシトシタルハ是論所ノ所有權ヲ定メタル裁判ニシテ抑其所有權ヲ定メントナラハ凡ソ所屬ト所有トハ自カラ別異アルモノニ付則論所ノ保存及開拓ノ實跡等何レノ村ニ係リシヤ之カ審理ヲ盡シタル後ニアラサレハ其判定ヲ爲スヘキ筋コアラサルニ東京上等裁判所ニ於テハ此等ノ審理ヲナサス其所屬ヲ定メタルニ據リ併セテ其所有權ヲ定メタレハナリ

第四條

東京上等裁判所判文第三條但書被告第一號繪圖墨線濃淡ノ「ト」同第四十二號證書中文字云々トハ上告ノ條件中ニ在ル者ナレ𪜈本院辨明ノ主要ハ前條々ニ於テ之レヲ盡セシニ付今別ニ之カ辨明ヲ付セス

判決

前條々ノ理由ナルニ付東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ大坂上等裁判所ニ移スニ付更ニ同所ノ裁判ヲ受クヘキ者也

第百八拾七號

○村有地爭論上告ノ判文 明治十一年二月十二日上告 明治十一年十一月十四日申渡

原告 滋賀縣下近江國坂田郡 第二十區磯村總代同村 平民 中關三治郎

右代言人 古澤原四郎

平居與三郎

東京府下京橋區新橋日

被告

吉町ろノ十三番地
司法省附屬代言人
星　亨

滋賀縣下近江國坂田郡
第二十區中多良村下多
良村朝妻三郷三ケ村總
代
中多良村平民
田中仁平

下多良村平民
中江猪三郎
増田傳次

朝妻三郷平民
古川源七

大坂上等裁判所ノ審判

原告　磯村代言人大藤高敏控訴ノ要領　明治十年九月十二日

被告爭フ所ノ葭地ハ往古ヨリ原告所有ノ場所ニテ左ノ證

第一號

爲御意申觸候書付ノ事

一合七石者　ムサ升立也

右者其村ノ内海ちくま小橋かつめヨリ米原前同梅ケ原前此内ノいりうみにてゑひさこかりあみとーあみ四ツもち瀧堂此分ノ御うんゑよふとーて被仰付候間當くれニ御筋衆御さーつ次第ニ納手形取可申候爲其書付遣シ仍テ如件

元和四年午八月十日　　片德滿　御印

磯村　　庄屋百姓中

ノ如ク舊彦根藩ヨリ內湖一般ヲ原告村ヘ與ヘラレ漁事採藻ノ爲メ內湖ノ稅米ムサ升七石ツヽ年々原告ヨリ上納シタリ又左ノ證

第二號

きんせい

一磯村領內藻草他所ェかり取候事

一所ノ者ニ不相理鵜つかひ候事

一公儀ヨリ御さーづ無之者新舟入近所ニテあみと持ゑひ雜魚等取候事

右相背族於有之者急度奉行所へめーつれ可參者也

ぬ

元和六年　　今村原右衞門印

申正月廿四日　　大鳥居玄蕃印

ノ如ク內湖一般保護ノ爲メ制札ヲ建ラレ磯村領內於テ採藻等ヲ禁セラレタリ右ニ付該訴葭地ハ當時淺瀨ニ葭ヲ植付ケ此間ニテ漁事ヲ爲シタル處貞享四年郡奉行ノ差圖ニ依リ尙增植シテ漁獵ヲ增加シタリ舊藩ノ節鷹場ニ相成リ當村ヨリ小舟ヲ出シタル事モ有之又內湖ノ內西小屋ヨリ北手ノ場所ハ中古筑摩村ヘ貸渡シ六斗五升ノ稅米ヲ受取其後明治四年三月二十三日ニ至リ左ノ證

第三號

爲取替申一札之事

右ハ其御村方御運上五石六斗ノ内當村ヘ永出作ニ借受置申候内
湖ノ義六斗五升ノ漁獵場今般速ニ相戻シ申處實正也
然ル上ハ向後申分無御座候就テハ當村領今江ニテ願之通此度新
川切開御許容ニ相成幷川漁支配可致候様示談調義ノ上雙方和濟
ノ御届ケ一紙連印ヲ以奉申上候爲後日御用掛リ加印爲取替依テ
如件

筑摩村庄屋　渡邊平造印
横目　渡邊又次印
組頭　眞野榮藏印

明治四年
未三月廿三日

御用掛リ愛知郡今在家村　岸善平印
同坂田郡杉ノ澤村　宮川鵜藏印

坂田郡磯村
御役人中

如ク筑摩村ヨリ之ヲ取戻シタルニ付即西小屋ノ葭モ當村ニテ苅
採リ其東小屋ハ元來原告漁獵苅葭ノ用ニ供シ多少村費ノ補助ト爲
シタリ明治六年地券發行ニ付江湖ノ稅ハ廢セラレタレモ葭地ハ依
舊原告ニ所有セリ然ルニ内湖一圓所有ノ儀一般ノ規則ニ循フベシ
トアルヲ以テ漁業當村將來ノ生計ヲ慮リ明治六年七月中男鳥川ニ

リ東迄ノ内湖ヲ埋メ田畑ヲ開カン事ヲ出願セシニ滋賀縣廳ヨリ其筋ヘ伺ノ上沙汰有之旨ニテ于今中止ト相成リ論所葭地モ此埋立願地ノ中ニ籠リ居リタル處有出願中明治六年地券書上ノ際ニ至リ該論所書出ス可キ哉否ヤ區長ヘ尋問セシニ被告村ノ内中多良村角田甚吾カ該葭地ハ今般ノ野帳ニハ組込マサル筈幷埋立願中ナレハ此節ハ野帳ニ書上ケサル旨答ヘタリ然ルニ爾後地租改正ノ調査アルニヨリ未タ開田ノ沙汰無之此儘經過セハ該所脱漏トナリテハ不相成ト思考シ右野帳ニ組込ミ現ニ明治八九兩年トモ改正ノ公租ヲ勤メタリ最モ舊來該地ニ對シ三石三升壹合三勺ヲ上納シ來リシハ免狀ニ明カナリシヲ明治九年七月滋賀縣廳ニテ一個ノ地ヲ雙方ヨリ書上ルハ不都合ナレハ示談スヘシノ喩達アリタル處熟議整ハス此時初メテ被告村ニ地券アルヲ知リ愕然トシ論究セシ處被告ヨリ出

訴セラレ終ニ原告權利ナシトノ裁判ヲ受ケタレヒ前陳述ノ如ク内湖一般所有ノ權ヲ與ヘラレタルハ第一二號證ノ如ク又道理上ヨリ之ヲ推スモ凡ソ内海ノ島嶼ニ於ル河川ノ崎洲ニ於ルカ如ク一圓ノ物ヲ所有スルノ權アルモノハ其中央ニアルモノ自然其所有者ニ屬ス可キハ必然ナレハ筑摩村ノ如キ沿湖ノ地方ニアル村方スラ現ニ幾部ノ米ヲ出シ永ク原告村ヨリ之ヲ借受タリ然レハ原告村於テ其中央ナル葭生地ヲ所有シ來リシハ明白ナリ又明治六年地券發行ノ際野帳ニ掲載セサルハ前陳ノ如クニシテ之レヲ事實ニ徵スルモ區長ハ即チ被告村ノ人物ニシテ嚮キニ原告村ヨリ示談ノ節ハ之レヲ拒ミ被告村ヨリ書上ケタルニハ直ニ奥印爲セシハ實ニ偏頗ノ所置ナリサレヒ地租改正野帳ニ原告ヨリ書上ケタル節現ニ奥印セシヲ以テ嚮キニ差除キノ返答ヲ爲シタルヲ證ス可シ又被告第一號地券

證ハ原告出願中被告竊ニ之ヲ書上ケ下付セラレタル地券ニシテ明治八年ニハ原被雙方書上ケタル事不都合ナリトテ示談スヘキノ喩達アリシ程ノ事ナレハ受ク可キノ理由アリテ受ケタル地券ニ非サルヲ以テ該訴ノ證據トハ認得セス其第二七八十十五十六號證（畧之）ニ有之葭稅ハ偏ニ被告村ノミ課賦セラレシモノニ非ス畢竟低地ハ皆葭地トナシ課稅セラレシニ依リ原告於テモ第八九號證ノ如ク上納シ來リシモノナレハ該稅ヲ以テ直ニ論所ノ稅米ト爲スヲ得ス其第九號證ニ定納新江入トアルヲ以テ內湖ノ漁業稅ト申立ルモ新江入トハ各村所有ノ葭漸次湖中ニ繁延シタルニ付其稅米ヲ課賦セシモノニテ現ニ原告於テモ之レヲ上納スレヒ決シテ漁稅ニハ無之明治六年免狀顯然タリ其第三號四號十號十二號十三號證（畧之）ヲ以テ採藻ハ被告ヘモ免許アリトノ申立ナレヒ原告其全權ヲ有シタレハ

採藻ノ稅ハ原告ニアリテ被告ニ無之ヲ以テモ明了タルヘシ其第五號扱證文ハ原告村方ニ舊記ナキニヨリ分明ナラスト雖モ文中ニ昔ヨリ筑摩村ノ小屋場ニ御座候所トアリ該訴ノ論所ハ字小屋ト唱ヘ小屋場ト云ハ稻置小屋トカ野番ノ小屋トカ其小屋ヲ建ル場所ヲ指示シタルモノニテ字小屋ノ場所トハ相違セリ假リニ同所ト見做ストモ西ナル字小屋ハ原告第三號證ノ如ク原告ヨリ筑摩村ヘ貸渡シタル部內ナレハ他ヨリ妄リニ之レヲ苅取ラハ所有者ナル原告之レニ立入取扱ヲ爲スモ亦當然タルヘシ前陳ノ如クナルヲ以テ原告ニ於テ舊來內湖一圓ノ全權ヲ有シタレハ其中央ニアル論所ナルヲ以テ原告之ヲ所有シ來リシハ判然タリ

被告ハ中多良村外一ケ村三鄉總代澤田喜平外四人答辨ノ要領

原告爭フ所ノ字小屋東西二个所ノ葭地ハ往古ヨリ被告村々ノ所有ナリ即チ左ノ證

第二號

明治七年発定

檢見

坂田郡

割印 村反別七拾六町四反七畝歩　朝妻村

一反別六拾壹町四反七畝廿八歩㊞　筑摩村

中略

一米二斗　葭場税

中略

納合　米五㊞百八拾石六斗七升三合

金壹㊞錢九厘

右ハ明治七年租税書面ノ通候條總百姓立會無甲乙割賦致決算米金共布達期限無遲滯可致上納候也

明治七年
十一月　縣印

滋賀縣令松田道之代理

滋賀縣參事籠手田安定印

外第七號九號十號十五號十六號略之

反別ノ内ニシテ連綿今日ニ於テモ定租上納セリ依テ明治六年地券發行ノ節之レヲ野帳ヘ組込ミ書上ケシ處實地檢査ノ上左ノ地券

第一號

第五百七十五號

地券之證

近江國坂田郡中多良村ノ内字小屋
第五百七十五番　持主　中多良村中
畑地五反歩　同　下多良村中

縣印

此地代金五両也

右檢査ノ官印上授與之

滋賀縣令松田道之印

明治六年十月　大屬中村耕印受付

ヲ下付セラレタリ尤地券ハ東小屋ノ地券ニシテ西小屋ノ地券未タ下付無之モノハ朝妻村中島村筑摩村合併ノ後右ヲ朝妻三郷ト唱ヘ村名一定セサルニ付地券見合ニ相成居リシナリ右ハ該所ノミナラス一圓ニ地券下付無之故ニ該村ノ義ハ第二號證免定ニテ其所有ヲ

證明セシモノナリ此ノ如キ確證アルヲ明治八年地租改正ニ際シ原告突然之レヲ野帳ニ組込ミタルニ付滋賀縣ヨリ刪除方示談ス可ク旨雙方ヘ達サレタルヲ以テ原告ヘ掛合シニ不條理申張ルニ付明治九年七月出訴シ裁判ヲ受ケタル處原告不服ヲ鳴ラシ尚又元和度ノ證據ヲ以テ論所ハ所有ナル旨申張スレモ原告第一二號ノ證ハ古來聞知セス假令眞正ノモノト爲スモ兩號トモ皆魚漁ニ關シ地所ニ關セサレハ該葭地所有ノ證トハ認メカタク且被告於テモ採藻ノ權アリシハ左ノ證

第三號

覺

一入海ニテもくさノ取場村々ヨリ取來リ候領分雖有之候以來ノ義ハ入相ニ申付候間梅ケ原きわ磯山のきわ多良浦共ニ無申分互

ニ入相もくさ取可申候若於相背ハ双方共ニ急度曲事可申付者也

寛永三年寅四月十七日　　大窪將監正道印

中多良村
庄　屋
同百姓中
下多良村
庄　屋
同百姓中

第四號

指上申手形之事

一去年入海ノもくさ村々へわつふ被仰付さかい御立候へトモ當年ヨリさかいなしに立相ニ取候由被仰付候以來ノ儀ハ如御定ノ可仕候事

一もくさはやし仕候事いつれの村ニテモ一切仕ましく候事

一もくさ取申ニ付テハ其村々ノ田地きわヨリたかひニ申分無之出相ニ取可申ニ付もくさ其村ノやしないニとり候テ御領分ノ外へうり申間敷候事

右ノ旨相背以來何かと申分仕候者其もの儀ハ不及申ニ加判ノもの共迄如何樣ノ曲事被仰付候共一言ノ子細申上ましく候爲後日手形進上申所實正也仍如件

寛永四年卯ノ二月十五日　　いそ村　　大夫　書判

同　宮内同
つくま　彦左衛門同
同　久兵衛同
中島　久三郎同
同　六介同
朝妻　清右衛門同

同　左近右衛門同
中多良村　半兵衛同
同　甚右衛門同
下多良　久次郎同
同　文右衛門同
梅ヶ原　孫右衛門同

第十二號

以書付申遣候北海へ泥かき藻取候義暫御指止メ被仰付候間明廿五日ヨリ右ノ船指出候義急度致サセ被申間敷候此段御奉行所ヨリ被仰渡候ニ付相達候此書付急ニ今晩中ニ順達納村ヨリ當支配へ戻シ可被申候以上

六月廿四日亥下刻　　御代官中　判

筑摩村印
中島村印
朝妻村印

九左衛門印
同
甚助書判

る

追テ村中へ早々可被申渡候尚又右村々ノ内ニテ庄屋一人此方へ罷出可被申候以上

右村々
庄屋横目中

第十三號

一北海藻草取泥かき先達テ暫ク御指止被仰付置候處明日ヨリ御構無之候間藻草取泥かき是迄仕來ノ通可被致旨被仰渡候間申達候此書付戻可被申候以上

丑八月十六日　　御代官中　判

筑摩村
中島村
朝妻村

追テ兩多良村梅ケ原村磯村右同樣ニ申渡候間其旨相心得可被
申候以上　　庄屋横目中

ニテ明瞭ナリ又原告植葭並增植ノ中立ノ如キハ頗ル曖昧ニ亘リ鷹場ノ如キハ神社佛閣ヲ除クノ外ハ關國皆井伊家ノ鷹場ナレハ該葭地ニ限ルコアラス又筑摩村ニ於テハ磯村ヨリ內湖ヲ區域シテ借受ケシ事之レナク元來內湖ハ沿湖村々入會ノ漁場ニシテ同村年々ノ出米ハ左ノ證

第十一號

磯竹間年ノ年ヨリ入うみの御うん上ノわり
五石六斗納升つめ也　　竹間村
此內　　磯村

六斗三升
四石九斗七升
但平田作舟一艘ニ付九升ツヽノわり
元和五年未ノ三月十七日　　磯村

市兵衛書判　同
治右衛門同　同
多兵衛同　同
兵右衛門同　同

第十四號

爲取替申一札之事

一　坂田郡　磯　村

右ハ其御村へ當村御運上五石六斗ノ内永出作ニ相成申候内湖ノ

同　孫右衛門同

同　新　七同

竹間村　新左衛門

同　藤　内

内六斗三升ノ魚漁場今般速ニ御指戻シ被成慥ニ受取申候然ル上ハ其御村領字今江ニテ御願ノ通新川切開御許容相成幷右川漁義ハ其御村ニテ御支配可被成候樣示談調義ノ上雙方和濟ノ御届一紙連印ヲ以奉申上候就テハ右新川切開ニ付申分無御座候爲後日御用掛加印致爲取替一札依テ如件

明治四辛未年三月二十三日　磯村庄屋　堀部藤次印

同　林　仁平印

横目　磯谷喜内印

組頭

中關三太印

御用掛坂田郡杉ノ澤
村　宮川鵜藏印

同愛知郡今在家村
岸善平印

坂田郡筑摩村
御役人中

ノ如クカリ〳〵網ノ漁株ヲ借受タル税米ニ有之右ハ古來カリ〳〵網ト唱フル漁業ニ於テハ原告村之レカ全權ヲ有シタルニ付年々六斗三升ノ米ヲ出シ此ノ漁業ヲ爲シタルヲ以テ原告於テハ右漁株ヲ所有シタルヲ漁場ヲ所有シタルモノト誤解セシナリ其第三號被告

第十四號ニ永出作等ノ文字アレモ全體ノ文意ト被告第十一號證トヲ參照セハ魚漁ノ永出作ニシテ地所ニ關セサル事亦明了ナリ且字小屋東西二个所ノ葭ハ一度被告ノ間ニ苅葭ノ爭論ヲ生シタル節原告磯村外二个村取扱ヒタル事左ノ證

第五號

御願證文之事

一入海ノ内ニ昔ヨリ筑摩村ノ小屋場御座候此所ニ草葭有之候ヲ中多良村ノ者かり取申ニ付御公儀樣へ可被申上ト御座候所ニ三个村ノ衆御出願ニテ相濟申候然上ハ自今以後右小屋ノ葭少モ手指仕間敷候自然小屋場へ參リ候テ草葭少々テモかり取候ハヽ御公儀樣へ可被仰上候其時少モ御恨申間敷候爲後日證文仍如件

寛文八年　中多良村庄屋

申ノ十一月七日　　五兵衛印

よこめ　　善右衛門印

組頭　　長左衛門印

米原村　　次郎介殿

磯村　　三右衛門殿

同　　文右衛門殿

世次村

十左衛門殿

同　　半右衛門殿

右ノ曖證文我等受取其方へ渡シ申候則中多良村へかり取申候草
葭ノ儀ハ我等共申受中多良村ヨリ受取申候此上ハ以來少モ申分
有之間敷候爲後日曖證文仍如件

曖人　　米原村　　次郎介印

磯村庄屋　　文右衛門印

同

寛文八年
申十一月八日

筑摩村庄屋　　三右衛門印
次郎助殿　　世次村横目　　十左衛門印
同村横目　　同　　半右衛門印
庄助殿

ノ外永年間他ヨリ苅取リタル事ナシ然ルニ原告ニ於テ之ヲ苅取リタルトシ剩ヘ原告ハ第四號證ノ如ク賣立帳ヲ製シ之レカ證ト爲スハ信シカタシ其江湖規則改正トハ漁獵一派ノ改正ニメ原告村漁獵

カリ〻〻網ノ類ヲ廢セラレタルニ付該葭地モ果シテ原告ノ植付ケタルモノナレハ其理由可申立ニ其義ナク又埋立出願及ヒ區長ヘ尋問シタル等ハ申立曖昧ニ有之明治六年野帳ニ組込マサルハ地券ノ制令ニ戻リ明治八年ノ野帳ニ至リ之ヲ組込ミ明治八九兩年公租ヲ勤メタリトモ原告於テ勤ムヘカラサルノ公租ヲ勤メタルハ其効ナキモノトス又原告第一號證ニ其村ノ内海トアルヲ以テ内湖一般所有スル旨申立ルモ原告果シテ全權ヲ有スルヤハ「ヱヒサコ」云々此分ノ御運上ト稼方ノ定限ヲ注書スル謂レナク且其村ノ内海トアルハ原告村ハ内湖外湖ノ中間ニ位スルヲ以テムサ升七石ノ税米ヲ以テ漁業ヲ爲スハ外湖ニアラスシテ内湖ナルヲ表明シタル迄ノ事ナリ又原告第二號證ニ磯村領トアルモ内湖一圓ヲ指示シタルモノニ非ス採藻一部分ノ持場ヲ指示シタルモノニ有之何トナレハ魚場ハ内

湖一般原被村ノ立會ナレヒ採藻ニ於テハ原被各其一部分ノ持場アリシ處被告第三號證寛永度ニ此區分ヲ解レタリ即原告ノ第二號ハ元和度ニシテ未タ區分ヲ解レサル以前ニ係レハ其一部分ノ持場ヲ指シ磯村領ト示サレタルヿ必然タリ元來該訴ノ葭地ハ筑摩ノ社記ニ出龜島入龜島ノ稱アリ其所有スル被告各村モ亦筑摩神社ノ氏子ナリ且實地ノ景況ニ於テモ被告村ノ地先ナレハ其所屬タルハ勿論ナリ又原告ニ於テハ中多良下多良兩村ハ漁獵ニ一切着手セサル云々ト申立レヒ明治五年十一月内湖ノヿニ付沿付ノ各村紛議ヲ生シタル末滋賀縣參事内湖ヘ出張アリテ下付セラレタル左ノ證

第六號

滋賀縣權參事籠手田安定ヨリ管下磯村朝妻中島筑摩中多良下多良梅ケ原右七ケ村ヘ訓諭ノ條

一藻草取ノ事

一かゞ〳〵網ノ事

一開田ノ事

一鳥獵ノ事

一鮎獵ノ事

右五ツノ事件ハ自カラ區別アリ是ヲ混同シテ申タツル時ハ條理判然タラス雙方トモ願意ノ筋立候ヨフ可心得尤皇國未曾有ノ今日ニ當リ湖水ヲ私有物ナト、心得候舊弊ハ斷然脫却シ雙方トモ先年已來ノ意恨ヲ捨テ反觀内省セヨ井伊家三百餘年ノ封土モ奉還シ今日ニ一變セリ是等ハ親シク見ル所ナラン雙方トモ今ヤ滋賀縣ノ管下ニ相成候上ハ縣廳ヨリ見ルトコロ是ヲ愛シ彼ヲ惡ノ理アラシヤサスレハ雙方トモ一家兄弟ノ思ヲナシ相救ヒ相助ク

ルノ誠意ニ基キ蠹忽ノ所業アルヘカラス方今實地檢査ノ上右狀情縣令ヘ言上セン然ル後ハ果シテ公明正大ノ裁許アルヘシ依テ雙方トモ不平ヲ釀スコトナク謹テ沙汰ヲ可相待候事

壬申十二月

ハ原告モ可有之筈ニテ該證說論ノ趣ヲ以テ考ルモ被告兩村ニ於テ漁獵ニ關係シタルハ判然タリ又被告第五號證中小屋場トアルノミニテハ所有ノ廉確明ナラス幷同證書奥書ニ苅取リタル草葭我等共中受等ノ文字アルヲ以テ原告之レヲ爭フト雖モ右ハ原告所有ノ權アリテ受取タル草葭ニアラス其媒介ノ酬謝トシテ與ヘタル葭ヲ受取リタリトノ文意ニテ聊所有ニ關スル所ナシ否サレハ同書連署ノ米原村世次村ニテモ爭フ可キ義ナルヲ其事ナキヲ以テモ明白ナリ而シテ其緊要トスル小屋場ノ稅米ニ至リテハ曖昧タル旨原告申立

ルト雖モ被告第二號七號十號免狀及ヒ第九號定納帳ニ葭場稅記載アルヲ以テ判然タリ又去ル明治六年五月滋賀縣ニ於テ諸雜稅取調各種ノ稅目ヲ訂正アリシ處被告於テハ小屋場ノ姿ヲ變セスト雖モ原告磯村ニ於テハ一鄕中ノ葭地悉ク田畑成ニ變換シ葭場トテハ一筆ノ地所モナカリシニ依テ明治六年原告ノ免狀ニハ既ニ葭稅ノ名目刪除セラレシハ原告ノ所有ニ無之被告ニ於テハ第七號十號證ノ如ク明治六年ニモ葭場稅依然ト記載アレハ緊要トスル所ノ稅米此ノ如ク判然ニシテ其所有ノ證モ亦明了タリ又原告第七號證ハ廻狀ノ如キモノニテ其書中ニ磯村ノ二字モ見ヘス承認スヘキモノニ無之又原告第八號證及ヒ被告第八號證トモ定納新江入ト掲載アルハ葭場稅ナリト原告申立ルト雖モ右原被告ノ第八號證ノ定納新江入ト掲載アルハ原告第九號證及ヒ被告第十七號證ニ至リ皆魚漁場稅

ト訂正アレハ舊來ノ免狀中ニ掲載アル定納新江入トハ即チ魚漁場稅ナル事明カニシテ被告カ永年間此稅米ヲ以テ漁業ヲ爲シ來リタルモ亦判然タリ左スレハ被告於テモ固ヨリ一部分ノ漁株ヲ所有セシ事ニテ右新江入ト原告カ〻〻網トハ別種ノ漁業ナルヲ以テ被告於テ漁株ヲ所有シタルハ判然タリ

判文

第一條

原告於テハ第一號第二號ノ證書ニ依リ内湖ハ一般原告ノ所有ナル旨申立ルト雖モ第一號ハ漁獵採藻ノ運上ヲ定メタルノ觸書ニシテ第二號ハ漁獵採藻ニ付テノ制札ナレハ皆是漁獵採藻ニ關渉シタル古記ニシテ内湖所有ノ證トヲ爲スヲ得ス又二個ノ證書中内海或ハ領内アルモ是亦内湖ノ所有ニ關係ナシ

を

第二條

原告於テ該訴葭地ハ當時淺瀬ニ葭ヲ植付ケ此間ニテ漁事ヲ爲シタル處貞享四年郡奉行ノ差圖ニ依リ尙增植シタリト申立ルト雖モ口上ノミニテ其證ナキヲ以テ採用シ難シ

第三條

原告第三號證ニ依リ内湖ノ内西小屋ヨリ北手ノ場所ヲ筑摩村ヘ貸渡シタル旨申立ルモ第三號ヲ以テ被告第十四號ノ證書ニ照スニ但六斗五升ノ稅米ヲ以テ漁獵ノ場所ヲ貸借シタル旨ノミ互ニ記載アリテ漁獵ノ場所判然ナラサレハ論所西小屋モ其區域内ニアルヤ否ヲ認メカタシ若シ論所西小屋ハ其區域内ニアリトスルモ該地漁獵場ニ非サルニ因リ漁獵場ノ貸借ヲ以テ該地ノ所有ヲ定ムルヲ得ス加之第三號ニ記載アル原告村方運上ノ五石六斗ハ原告第一號ムサ